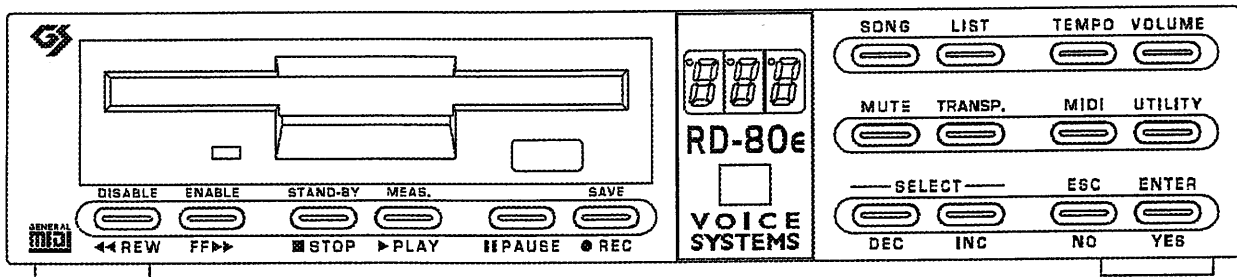
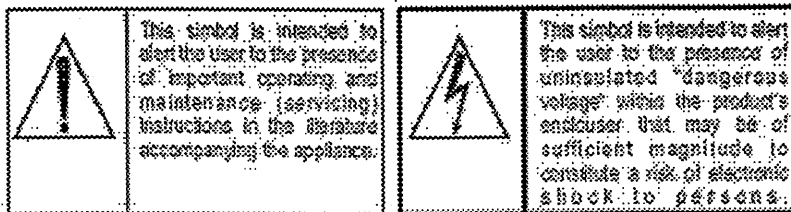
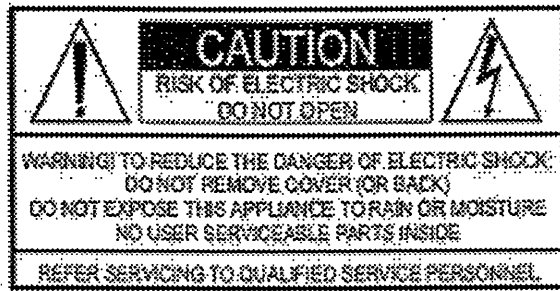


RD-80e

DATA FILER



Manuale Operativo
Operating Manual



火事、感電、怪我に関する重要な説明

電気製品を取扱う場合は、基本的な注意及び下記の事項を守って下さい。

- 1) 製品を使用する前に、この取扱説明書をよくお読み下さい。
- 2) 怪我の危険を避けるために、子供の近くで使用する場合は十分注意して下さい。
- 3) この楽器を水まわりで使用しないで下さい。キッチン、流し、湿気の多い地下室、プールの近く等。
- 4) この製品を単独で、またはアンプ、ヘッドフォン、スピーカーと一緒に使う場合、難聴の原因となる音量が出る可能性があります。
長時間大きな音量や、不快なほどの大音量で使用しないで下さい。難聴や耳鳴りを感じた場合は聴覚の専門家に相談して下さい。
- 5) この製品を、放熱器、温風噴出し口、その他熱を発生する製品の近くに置かないで下さい。
- 6) 長く使用しない場合はコンセントからこの製品の電源プラグを抜いて下さい。
- 7) この製品の上に物が落ちたり、液体がこぼれたりしないように気をつけて下さい。
- 8) 下記の場合には、経験のある技術者に修理を依頼して下さい。
 - a. 電源コードまたはプラグが壊れた場合
 - b. 物が落ちたり、液体がかかった場合
 - c. 雨に濡れた場合
 - d. 製品が正常に動かないようにみえた場合
 - e. 落としたり、外装ケースが破損した場合
- 9) ユーザー・メンテナンス説明書の記述に無い修理は行わないで下さい。その他の修理は資格のあるサービスマンが行って下さい。

目次

1. 重要な注意点	1
1.1 製品のケア	
1.2 楽器についての注意点	
1.3 この取扱説明書について	2
2. 主な特長	3
2.1 RD80eの構造	
2.2 データフォーマット	
3. コントロールと接続	4
3.1 フロントパネル	
3.2 リアパネル	6
3.3 リモコン	7
4. 接続	8
5. ソングのプレイバック	9
5.1 システムの開始	
5.2 自動ソート	
5.3 ソングの選択と演奏	10
5.3.1 エラーメッセージ	
5.4 ホリウムの設定	11
5.4.1 ホリウムモードの設定	
5.5 [REW] と [FF] の使い方	13
6. リアルタイム機能	14
6.1 トラック・ミュートینگ	
6.1.1 ミュートの設定	
6.2 トランスポーズ	15
6.2.1 トランスポーズの設定	
6.3 外ローム・テンポの設定	16
6.3.1 テンポの設定	
6.4 変更のセーブ	17
6.4.1 エラーメッセージ	18
7. レコーディング	
7.1 レコーディングについて	19
7.2 レコーディング手順	
7.2.1 エラーメッセージ	20

8. MIDI部	22
8.1 アウト・ルーター	
8.2 Sync In	23
8.3 Sync Out	24
9. ユーティリティ部	26
9.1 プレイ・モード	27
9.2 ディスク機能	
9.2.1 ディスクのフォーマット	28
9.2.2 ディスクのコピー	29
9.2.3 エラーメッセージ	31
9.3 ファイル機能	32
9.3.1 ファイルのコピー	
9.3.2 ファイルのデリート	34
9.3.3 エラーメッセージ	
9.4 オプションのグラフィックディスプレイのコントロール	35
9.4.1 フォントの選択	36
9.4.2 スペルタイプ選択	37
9.5 ビデオ・インターフェースの設定	
9.5.1 フォントの選択	38
9.5.2 色の選択	
9.6 ホール・ハーモナイザ	39
9.6.1 ハーモナイゼーションのタイプ	40
9.6.2 MIDI受信チャンネルのハーモナイザ設定	41
9.6.3 レベル設定	
10. リスト	42
10.1 リストの作成	
10.2 リストのセーブ	43
10.2.1 エラーメッセージ Save List	
10.3 リストの実行	44
10.3.1 エラーメッセージ Play List	45
10.4 リスト・ファイル管理	
11. アクセサリー機能	46
11.1 ファクトリーセッティング	
11.2 ソフトウェア・リリース No. 表示	
11.3 スタンバイ機能	47
12. アペンドイクス	48
オペレーティング・システムのアップデート	
サウンド・リスト	

1. 重要な注意点

1.1 製品のケア

- * RD80eを熱源や、湿気、ほこりの多い場所、強い磁気のある所には置かないで下さい。
- * 構造体やスイッチ、ボタン等に過度の力を加え無いで下さい。
- * 輸送中や使用中に製品に無理な力がかからない様に保護して下さい。
メーカー製のパッケージか同等のケースに入れて運送して下さい。
- * 可能ならば、ラジオ、テレビ、モニターのような強い妨害電波を出す機器の近くには置かないで下さい。
- * 異物や、如何なる液体も、絶対にこの製品の中に入れて下さい。
- * クリーニングの際は柔らかい布かエアアを使用して下さい。洗剤、溶剤、アルコール等は使わないで下さい。
- * この製品を直射日光にさらさないで下さい。
- * 良質の遮蔽ケーブルをご使用下さい。ケーブルをソケットからはずす場合は、必ずコネクター部を持って下さい。ケーブルは自体を引っ張らないで下さい。
コードを巻く場合はしばったりねじったりしないで下さい。
- * 結線する場合は他のユニット(特にアンプやスピーカー)の電源がオフになっていることを確認して下さい。雑音や、危険なシグナル・ピークを避けられます。

1.2 この機器の注意点

重要！

RD-80eは[Direct-to-disk]という、ディスクから読みながら、演奏する、読みシステムをとっていますので、ロードタイムが短くなり、すばやいプレイバックが可能になっています。

しかし、この読みシステムはプレイバックの中断、システムエラー、読みヘッドの損傷を避けるために、フロッピー・ディスクを、動作中には、決して、取りださないで下さい。

ソングやリストの実行中、フォーマット中、ファイルの読み、書き込み中等、LED点灯中は、絶対にディスクを取り出さないで下さい。

ディスクを取り出して良いのは、LEDが消えている場合だけです。
操作上、取り出しが必要になる場合は、ディスプレイに [wait for] という表示が出て LEDが消えます。

下記の注意点をお守りいただき、この機器をよい状態で、ご使用下さい。

- * 質のよいフロッピー・ディスクをご使用下さい。フロッピー・ディスクは熱源、磁気の強い場所（モニター、スピーカー等）、湿気やほこりの多い場所には置かないで下さい。Direct-to-diskシステム採用のため、エラーの無いフロッピー・ディスクが必要です。
- * 時々、フロッピー・ディスクのバック・アップを取っておいて下さい。[direct-to-disk]システムは、他のシステムよりずっと早く、ディスクの磁性体が磨耗します。

ファイルのタイプに関しては、次のことにご留意下さい。

- * RD-80eは、MS-DOSでフォーマットされた、スタンダードMIDIファイル(拡張子.MID)を使います。それ以外の拡張子を持つファイルは実行できません。
- * このシステムは16トラックまでサポートします。フォーマット1のMIDIファイルがこのトラック数を超える場合は、ディスプレイにエラーが表示されます。しかし最適の状態でご使用いただくためには、SMFファイルタイプ0をお奨めします。
- * RD-80eは、ソングのどのような歌詞のフォーマット(及びそのMIDIファイル製作者の著作権)も認識して、ビデオ・インターフェースを通してテレビやモニターに表示できます。そのため、フォーマットを変換せずに、カラオケの許可されたフォーマットタイプを使用することが大切です。同一のファイルの中で1つ以上のテキストコードモードを使用しないで下さい。

1.3 この取扱説明書について

- * この取扱説明書を大切に保管して下さい。この取扱説明書をよくお読み下さい。時間の節約になり、最良の状態でご使用いただけます。
- * □で囲んだ番号は、操作パネルのボタンや裏側の接続端子を示しています。

2. 主な特長

2.1 RD80eは MIDI データファイラーで、MIDIファイルを読み込み、内蔵したサウンド・ジェネレーターを使って、オーディオフォーマットでプレイバックできます。

RD-80eは2つの部分に分けられます。データプレイヤーと呼ぶファイル管理部と、サウンド・ジェネレーターです。

データプレイヤー部はフロッピーディスクに保存したデータを読み込み、それをサウンド・ジェネレーター部か、[MIDI OUT] ポートへ送ります。さらにデータプレイヤー部は、フロッピーディスクに保存したソングの管理、ソングのシーケンスを含む内部のプログラムすべてのデバイスの管理、ソングのエディット機能、つまりデリート、メモリー等、変更機能の管理を行います。

サウンド・ジェネレーター部は、データプレイヤー部から受信したデータを、1つ1つの音の音色と強弱情報を保持しながらオーディオ信号に変換して、音楽にします。

サウンド・ジェネレーター部は、353音の再生と、17のドラムキットが可能で、最大同時発音音色数16で、それぞれが各MIDIチャンネルに割り振られます。

最大同時発音数32。サウンド・ジェネレーター部には、リバーブ、エコーといった環境効果、コーラスやフランジャーといったモジュレーション効果等の、マルチ効果ユニットもあります。

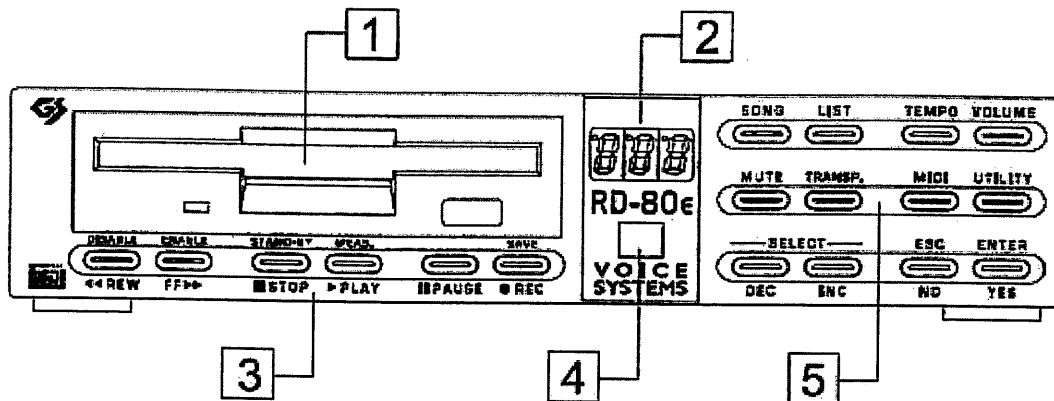
2.2 データフォーマット

RD80-e フロッピーディスクドライブは、MS-DOSにフォーマットした、DD(720te)、とHD(1.44MByte)のフロッピーディスクを使います。これら2つのセクションにファイルがある時は、読み込み時にチェックされ、フォーマット1か0のスタンダードMIDIファイル(MID)に適合しなければなりません。MIDIデータを外部音源から読みこむ間、その結果はスタンダードMIDIファイルフォーマット0として保存されます。

RD80eがファイルを正しく認識するためには、MIDIファイルはジェネラルMIDIに属するものでなければなりません。

3. コントロールと接続

3.1 フロント・パネル



1. フロッピー・ディスク・ドライバー：LEDはフロッピー・ディスクの読み込み/書き込み状態を表示します。ドライブからディスクを取り出すにはボタンを押して下さい。
LEDがONの時は、決してディスクを取り出さないで下さい。
2. 3桁の数字表示：この表示は、ソングの選択、RD80eの機能数値等、システムの状態に関するすべての情報を示します。
3. コントロール・キー：これら2つのキーはそれぞれ2つずつの機能をもっています。（[PAUSE]キー除く）ソングの演奏やレコーディングの状態をチェックできます。第2の機能はボタンのボタンの上に黄色で示されます。
 - * [REW] (DISABLE)：高速の戻し機能です。または[MIDI] [UTILITY]キーで呼び出したメニュー機能を無効にできます。
 - * [FF] (ENABLE)：早送り機能及び、[MIDI] [UTILITY]キーで呼び出したメニュー機能を有効にできます。
 - * [STOP] (STAND-BY)：プレイバックやレコーディングを中止するボタンです。2秒間長押しすると、スタンバイモード（省エネ）になります。
 - * [PLAY] (MEAS)：ソングの演奏開始ボタンです。2秒間長押しすると、現在の小節を表示します。
 - * [PAUSE]：演奏やレコーディングを一時停止します。
 - * [REC] (SAVE)：レコーディング・モードを有効にします。（「PLAY」キーと一緒に押せば、ソングの変更をセーブしたり、リストをセーブしたりできます。
4. リモート・コントロール・レシーバー：リモコンの赤外線を受信機が有ります。この機能がうまく働くように、この部分をステッカー等で塞がないで下さい。

5. セレクション/コンファメーション/リアルタイム・機能/アクセサリ機能

[SONG] と [LIST] キー: これらは演奏したいファイルのタイプを選ぶボタンです。

- * [SONG]: ソングを選ぶキーです。(MID ファイル)
- * [LIST]: リストを選ぶキーです。(前もって作った一連のソングのシーケンス)

[TEMPO] - [MUTE] - [TRANSP] キー: 演奏中にリアルタイムでこれらの機能をオン・オフさせるボタンです。これらのボタンを長押しすると、それぞれの機能を修正できます。詳しくは、6をご参照下さい。

- * [TEMPO]: ソングのテンポを調整するボタン
- * [MUTE]: 演奏中のソングから1つ以上のトラックをはずす機能です。
- * [TRANSP]: ソングのキーを移調するボタンです

[VOLUME] キー: RD-80e 全体のボリュームコントロールをします。長押しすると、ボリューム・コントロールに関するMIDIメッセージ(NRPN or CC)部へ入ります。詳しくは5.3をご参照下さい。

[MIDI] と [UTILITY] キー: これらのボタンを押すと、MIDIとアクセサリ機能へ入ります。詳しくは、8と9をご参照下さい。

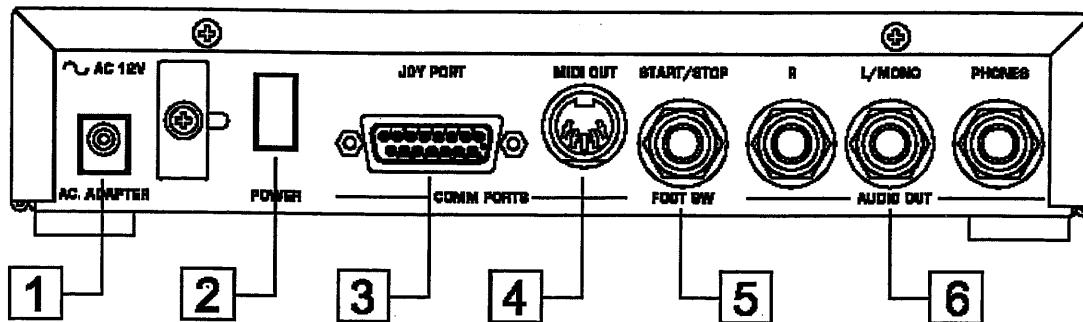
[DEC] と [INC] キー: これらのボタンはソングを選んだり、MIDIとUTILITY機能へのアクセス、各機能の数値変更に使います。

- * [DEC]: ソングを選んだり、表示された数値を減らすために使います。
- * [INC]: ソングを選んだり、表示された数値を増やすために使います。

[ESC] (NO) と [ENTER] (YES) キー: システムが要求する手順を確認したり、止めたりするキーです。

- * [ESC] (NO): 実行の中止
- * [ENTER] (YES): 実行の確認

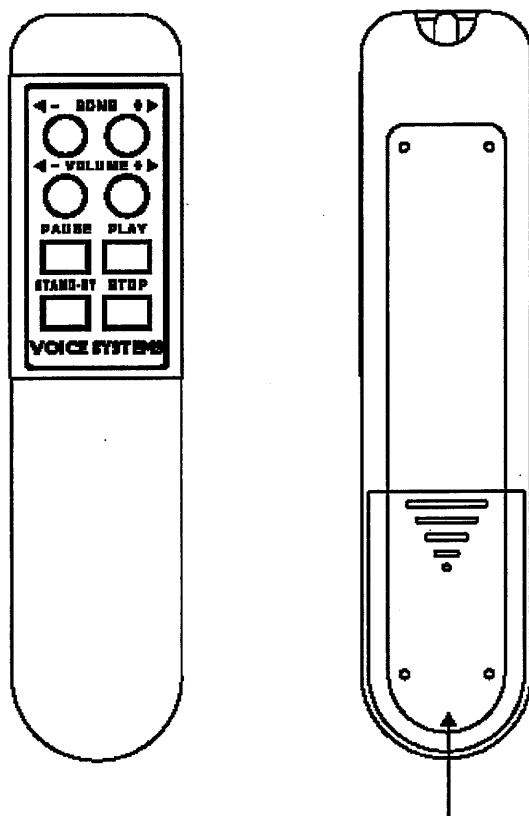
3.2 リア・パネル



1. [AC ADAPTER] : ACアダプター接続端子です。
 2. [POWER] スイッチ: 電源オン・オフスイッチです。
 3. [JOY PORT] : ジョイ・ポート接続端子です。ビデオ・インターフェース、ホーカル・ハオモナイザー、グラフィック・ディスプレイ等を接続できます。
この端子はまた、ジョイ・ポート-MIDI 接続ケーブルを使って、MIDI IN ポートとしても使えます。詳細は接続部の説明をご参照下さい。
 4. [MIDI OUT] コネクター: RD-80e からの MIDI データのアウトポートです。
 5. [FOOT SW] フット・スイッチ・コネクター: スタート/ストップ機能を持つフット・スイッチの接続端子です。RD80e の内部部品を損傷を防ぐため、オープン・コンタクトのフット・ペダルのみをご使用下さい。
 6. オーディオ・アウト部: RD-80e 内部のサウンド・カードからのすべてのアウト・信号を含むセクションです。
- * [PHONES] : ステレオ・ヘッドフォン用のソケットです。100Ω以上のインピーダンスのヘッドフォンをご使用下さい。
- * [R] [L/MONO] : アンプ・システムからのケーブルを、ここへ接続して下さい。モノの場合は [L/MONO] へ接続して下さい。

3.3 リモートコントロール

RD-80e にはリモコンがついていて、離れた所からメイン機能のコントロールができます。操作ボタンの名前は本体のフロント・パネルの名前と同じです。それぞれの機能については3.1をご覧ください。

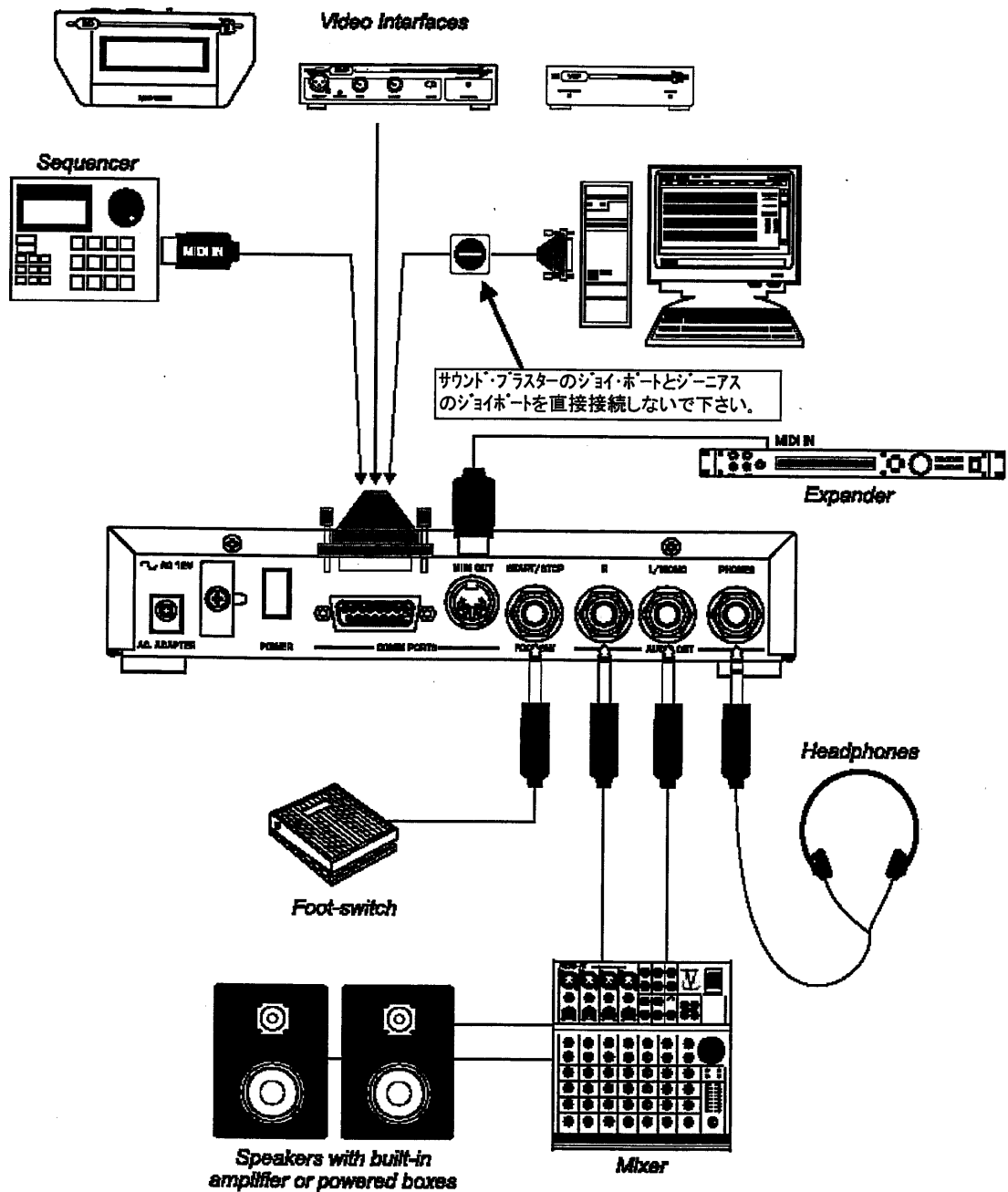


電池(ついていません)ホルダー

注意

リモコンが正しく動くためには、フロント・パネルの番号表示の下を、ステッカー等でふさがらないで下さい。そこにリモコンの信号を受けるセンサーがあります。

4. 接続例



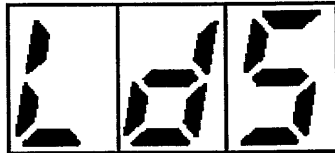
注意

MIDIアダプターへのジョイポートは内蔵フォトカプラーを持っていないかもしれません。アダプターがジョイポートリセントを持っている場合は、ここに他の周辺機器を接続しないで下さい。

5. ソングのプレイバック

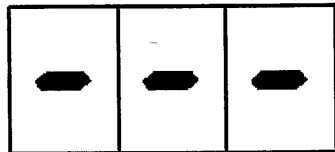
5.1 システムの開始

接続が済んだら、RD-80e のリアパネルの電源スイッチをオンにします。
ディスプレイにはロードされたソフトウェア表示されます。

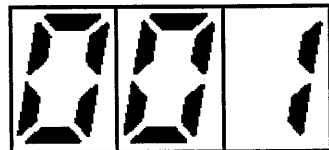


次に中央のダッシュが動き、システムのスタート・アップを待つように指示してきます。

システムのセットアップが完了すると、次のようになります。



フロッピー・ディスクを入れなかったり、入れてもフォーマットが適合しない場合(5.3.1参照)にも、こうなります。



これはソング選択の画面(以後メインページと呼びます。)で、フロッピー・ディスクに保存された最初のソングが選ばれたことを示しています。(5.2の自動ソート参照)

5.2 自動ソート

ドライブにフロッピー・ディスクを入れると、いつでもRD-80eの自動ソート機能が働きます。ソングをASCIIコードに従って、アルファベット順にソートします。つまり、ディスクの最初のトラックはアルファベットの最初のもの、アルファベットの終わりのものが最後という順になります。

ファイル名には番号のついているものもあります。ASCIIコードの順では番号は文字の先にきます。例えば、2worlds.mid はmyway.mid より前にきます。

ASCII アルファベット・オーダーの最後は()です。したがって、アンダーバーで始まるファイルは最後になります。

RD-80eでは、リストの最後に置かれる、自動的に作られるファイルにアンダーバーを使います。
(7.2 レコーディングされたソングのセーブ機能 参照)

5.3 ソングの選択と演奏

リストの最初に来ていないソングを選ぶには、[INC] と [DEL] キーを使います。

[ENTER]キー は点滅し、[ESC]キーは一定のライトが点灯します。

選んだソング名が現われたら、[ENTER] を押します。ディスクドライブのLEDはソングがロードされるまで点灯します。

実際には、ソングのロードはあまり時間がかかりません。しかし、MIDIファイルのフォーマットには長い時間がかかる場合もあります。特にファイルに歌詞が含まれている場合には時間がかかります。

[ESC] キーを押すと、実行を中断して、直前にロードしたソングを表示します。

プレイバックを始めるには、[PLAY] ボタンを押します。そのLEDが点灯し、プレイバックを開始します。

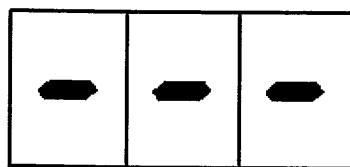
[STOP] を押すとプレイバックが止まります。また、プレイバックを一時停止する場合は [PAUSE] を押します。ふたたび[PAUSE]を押すと、停止した位置からプレイバックを再開します。

演奏中に、他のソングを選ぶこともできます。[INC] と [DEL] キーを使ってソングを選び、[ENTER] を押します。そうすると [PLAY] ボタンを押すことなく、自動的に選んだソングが演奏されます。[ESC] を押すと、新しく選んだソングがキャンセルされます。

演奏が進んでいる小節数を表示したい場合は、プレイバック中またはポーズの状態、[PLAY] ボタンを2秒長押しします。ソング選択画面へもどる場合は、[ESC] を押します。

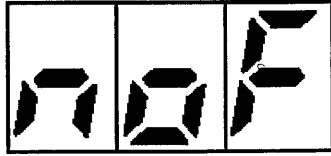
5.3.1 エラーメッセージ

FLOPPY DISK NOT VALID OR NOT INSERTED



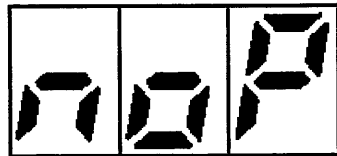
MS-DOSで正しくフォーマットされていないディスクが入りました。ディスクを取り出し、再度フォーマットし直してください。フォーマットしても、同様の画面が出る場合は、ディスクが壊れている可能性があります。

NO FILE



このフロッピー・ディスクにはMIDIファイルがありません。

SONG NOT PLAYABLE



選ばれたファイルはスタンダードMIDIファイルではないか、16トラック以上の1SMFフォーマットです。
このソングは演奏できません。

N.B.

Direct-to-Disk 読み込みシステム採用のため、ディスクは完全な状態でご使用
下さい。ファイルにエラーがあると、演奏が突然中断される場合があります。

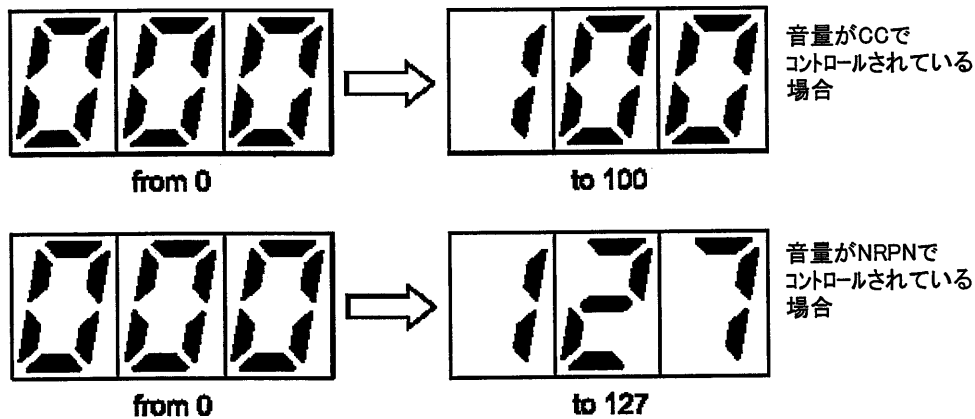
プレイバック中には絶対にフロッピー・ディスクを取出さないで下さい。

5.4 音量設定

プレイバックするソングの音量を設定するには、[VOLUME] キーを押します。

音量がCCでコントロールされている場合は 0-100 で、

NRPNでコントロールされている場合は0-127の範囲で表示されます。



[INC] と [DEL] キーを使って、音量を調整します。調整後に [ENTER] か [ESC] を押すと新しい数値が自動的に保存され、ディスプレイはメインページに戻ります。

注意

スタンバイしているトラックのプレイバックを始める前に、スピーカーを壊さないために、音量を確認して下さい。

5.4.1 ボリューム・モードの設定

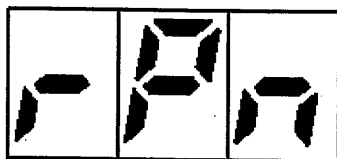
音量は2つの方法で調整できます。

- * NRPN: 内部のサウンド・ジェネレーション・カードのボリュームに関連したNRPN メッセージによる方法
- * CC: 準備のできたトラックのコントロール・チェンジ 11のパーセンテージ調節による方法

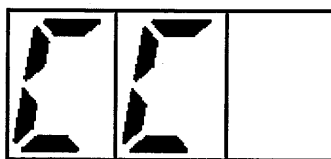
ボリューム・モードがNRPNとして設定されると、電源オンや調整のたびに、システムは、その変更情報、つまり、ボリュームNRPNの数値を内部のサウンド・ジェネレーター部へ送ります。このモードでは、ソングがRD-80eの内部のサウンド・ジェネレーションシステムを使って演奏するときに、より良く、ボリューム・コントロールができます。

一方、CCモードが選ばれている場合は、ソングにあるCC11がパーセントベースで変更されます。そして、本来は不変のボリュームを、いろいろなバリエーションを持たせるために、トラックにあるデータも影響を受けて、変化します。

この2つの方法を選ぶためには、ストップ・モードで、[VOLUME] ボタンを押します。ディスプレイは現在設定されているボリューム・モードを表示します。



ボリューム モード=NRPN



ボリューム モード=CC

[DEL] と [INC] キーを使って、どちらかを選びます。

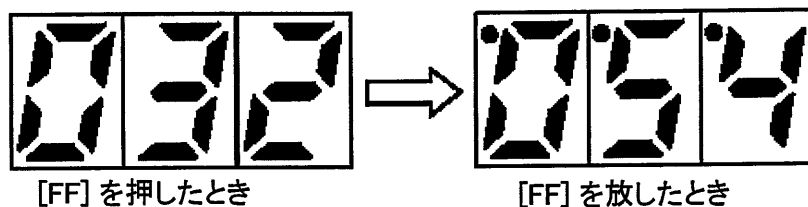
次に[ENTER]を押すと、この選択が確定します。反対に、[ESC] を押せば、この設定は保持されません。どちらの場合も、ディスプレイには、ソング選択の画面が表示されます。

5.5 [REW] と [FF] キーの使い方

[REW] (Rewind) と [FF] (Forward) キーを使って、選んだソングの小節を見つけられます。

これらのキーはテープレコーダーにあるキーと同じ機能を持っています。[FF] は前方を探し、[REW] は後方をサーチします。

これらのキーのどちらか一方を押すと、ディスプレイには目的の小節数が表示されます。プレイバックは一時的に停止し、システムは選ばれた小節数のサーチを続けます。



目的の小節に達すると、ソングのプレイバックが自動的に再開し、ディスプレイはソング・ナンバーの表示にもどります。

目的の小節に達するまでの時間は、ソングの性格によって異なります。(ファイル・フォーマット、トラック数、歌詞の有無等)

6. リアルタイム機能

RD-80e には、リアルタイムで実行できるいくつかの重要な機能があります。それらはソングのプレイバック中に起動できるため、演奏中のソングをすぐに修正できます。その修正を保持する場合は、6.4の手順に従って下さい。

6.1 トラック・ミュート

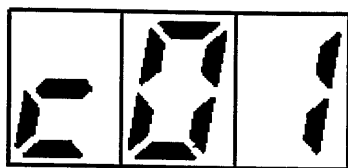
ソングのプレイバック中に、演奏中のトラックのいくつかを取り除く機能です。そのトラックにフィルターをかけて、そのトラックにあるすべてのイベント(音)を鳴らなくします。従って、そのトラックを割り振ってある楽器の音をミュートします。

この機能をオン/オフするには、[MUTE] キーをすばやく押します。ミュートのLEDがオン/オフ状態を示します。設定画面にアクセスするには、そのキーを長押しします。

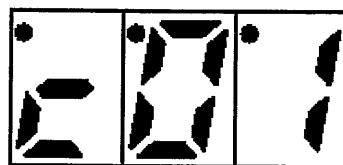
6.1.1 ミュートの設定

ミュートセッティング機能は、ミュート機能がオンになっているときに、どのトラックをミュートするかを設定するものです。

止まっている状態で、[MUTE] キーを約2秒間押し続けると、ディスプレイにトラック1=MIDI チャンネル1のミュート状態が表示されます。



トラック1でミュート無効



トラック1でミュート有効

トラックがミュート状態にあると、上の図のように、3つの点が付きます。

[DEL] と [INC] キーを使って、トラックを選び、[REW] と [FF] キーでミュートのオン/オフを決めます。
([REW] = オフ [FF] = オン)

同様の方法で、1つ以上のMIDI チャンネル(トラック)をミュート状態にできます。選んだ状態はディスプレイに表示されます。

[ENTER] キーを押すと、新しい設定が保存され、[MUTE] ボタンをすばやく押すことにより、そのミュート状態を再現できます。通常 ソングのメロディライン(リード)が割り振られるトラック4は、デフォルトではミュート状態にしてあります。[ESC] を押せば、変更の取り消しができます。どちらの場合も、ディスプレイはソング選択画面へ戻ります。

6.2 トランスポーズ

演奏するソングのキーを変える(転調する)機能です。この機能を使うと、ドラム・キット・トラック以外のすべてのトラックで演奏される音が、半音単位で変えられます。

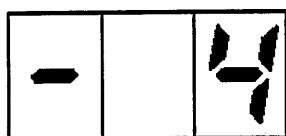
MIDIファイルでは、ドラム・トラックはチャンネル10にあります。これはドラムの音色に影響するため、移調できないようにしてあります。もし変化させると、設定してあるリズムにも影響します。

[TRANSP] ボタンをすばやく押すと、トランスポーズをオン(LED点灯) / オフ(LED消灯) できます。
[TRANSP] ボタンのLEDをオフにすれば、ソングはファイルに保存されたオリジナルの調で演奏します。

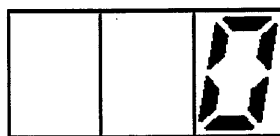
6.2.1 トランスポーズの設定

[TRANSP] ボタンをすばやく押すと、トランスポーズを起動できることを説明しましたが、トランスポーズの設定機能を使って、ソングを何半音移調するかを設定できます。

[TRANSP] ボタンを2秒間押し続けると、ディスプレイは次のようになります。



4半音低いトランスポーズ



トランスポーズ無し



2半音高いトランスポーズ

[INC] と [DEL] キーを使って、±12半音の範囲で、トランスポーズの数値を変えられます。

[ENTER] を押すと、新しい数値を保存し、[ESC] を押すと変更の操作を取りやめます。(オリジナルの調にもどります。)

注意

リモートビデオインターフェースか、グラフィックディスプレイによって、歌詞とともに表示されるコードはトランスポーズの影響を受けません。

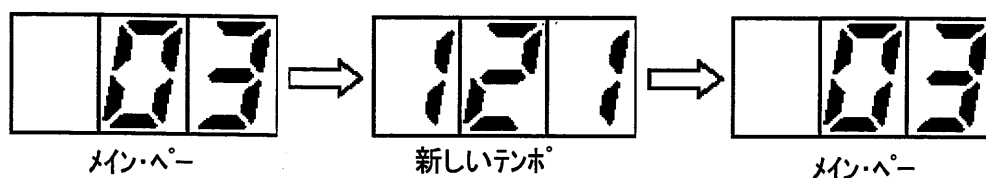
トランスポーズが0に設定されていると、トランスポーズ機能をアクティブにしても、ソングは影響を受けません。

6.3 外ローム・テンポの調整

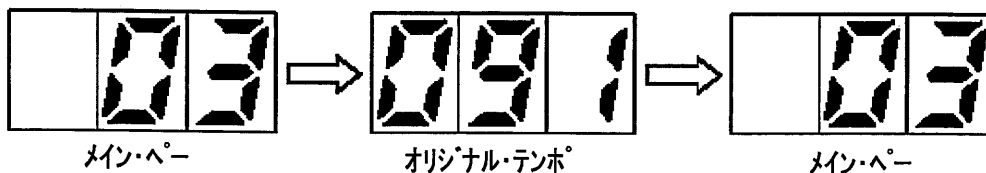
演奏中のソングの外ローム・テンポを変える機能です。

[TEMPO] キーをすばやく押すと、テンポ機能をオン(LED点灯)/オフ(LED消灯) できます。テンポの設定はテンポ設定機能で行います。

この機能がアクティブになっていると、ディスプレイには新しいテンポが数秒表示され、続けてメインページへ変わります。



一方、この機能がアクティブになっていない場合は、オリジナル・テンポが表示されてから、メイン・ページになります。



6.3.1 テンポの設定

[TEMPO] キーを長押しすると、テンポ設定画面へ入ります。そこでは、外ローム・テンポをパーセントで調整できます。(ソングの絶対テンポではありません。) プレイバックの際にプログラムした、リタルランドやアツチエレランドも変化します。

この数値はパーセンテージであることに注意して下さい。(RD-80e は新しいbpm(ビート・パー・ミニッツ)の設定を実行します。) 100という数値はオリジナル・テンポの100%を意味します。従ってそこではテンポの変更は起きていません。もしも200%に設定されると、新しいテンポはオリジナルの2倍になります。テンポ変更の範囲は50% から 200%までです。

[ENTER] を押すと、新しい数値を保存し、[ESC] を押すと変更の操作を取りやめます。(オリジナルのテンポにもどります。) どちらの場合も、ディスプレイはメイン・ページへ変わります。

6.4 変更のセーブ

RD-80e では、リアルタイム機能によってソングに加えられた変更(ミュート、テンポ、トランスポーズ)は、保存できます。

注意

セーブの実行に際し、RD-80e はオリジナル・ファイルを自動的に上書きします。オリジナル・データを保存しておきたい場合は、バックアップ・コピーをとっておいて下さい。この操作はミュート機能をアクティブにした状態で行わなければなりません。(なぜならば、ミュート機能が設定されたトラックのコンテンツを復元することは不可能だからです。) 複合したソングの場合は、変更点を計算し、それらをセーブするには数分かかります。従って、1つ1つの変更毎にセーブするのではなく、すべての変更が終わってから、最後にセーブすることをお奨めします。

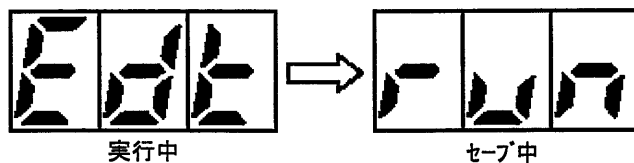
変更したソングのセーブ手順は、下記の通りです。

- * 変更したいソングを選ぶ。
- * 変更したいソングのリアルタイム機能を設定し、アクティブにする。
- * 変更が成功したかどうか、プレイバックしてチェックする。
- * [REC] ボタンを押す。(セーブする場合) システムは次の画面で手順を実行するかどうか確認してきます。



これは確かに良いですか(Are You Sure?) という意味です。[ENTER] を押すと、実行に同意することになります。[ESC] を押すと実行を取りやめます。(変更は保存されません。)

変更の保存が実行される場合は次の画面が現れます。



リアルタイム機能が完了すると、オフになり、画面は次のようになります。



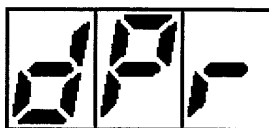
これは実行終了の意味です。

重要な注意

エディット(Edit)やセーブ(run)の実行中にはディスクを取出さないで下さい。
変更やセーブの実行前には、フロッピーディスクに十分な容量があることを確認して下さい。
(変更しようとするファイルのサイズと等しいスペースが必要です。)
ミュート機能をオンにしてソングをセーブしている間は、ミュートモードに設定したイベント(音等の情報)はすべてデリートされます。変更をセーブした後では、ミュートにしたトラックを演奏することはできません。
[REC] キーが押されたときには、アクティブになっているリアルタイム機能だけが保存され

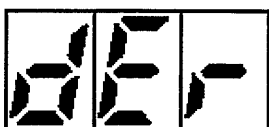
6.4.1 エラー・メッセージ

PROTECTED FLOPPY DISK



ファイルをセーブしようとしているディスクはライト・プロテクトがかかっています。ディスク左上のタブをクロス・ポジションに動かしてください。もう一度ドライブに入れ、[ESC] を押してください。

DAMAGED FLOPPY DISK



ディスクが壊れていて、セーブの実行ができません。[ESC] を押してメイン・ページへもどって下さい。

NOT ENOUGH SPACE ON DISK



ディスクに十分な容量が無く、ファイルを変更して、セーブできません。[ESC] を押してください。ディスクに容量を空けてから、この手順を繰り返してください。

7. ソングのレコーディング

7.1 はじめに

スタンダード MIDI ファイル 0と1のフォーマット(2.2参照)によるソングをプレイバックするとともに、RD-80e はJoy-to-MIDIアダプター(4の接続参照)を使って、MIDI INポートから受信したMIDI イベントをレコーディングすることができます。

一度レコーディングされると、スタンダードMIDI ファイルの0フォーマットの形式で、フロッピー・ディスクに保存されます。

下記のことにご留意下さい。

- * RD-80e は多重録音はできません。(全体でも、部分でも) レコーディングしたソングを交換する場合は、まず、そのソングをデリートしてから、改めてレコーディングし直してください。
- * レコーディングは常に4/4で行われます。
- * RD-80e は解像度 192 t.p.q.n. でレコーディングします。
- * レコーディングは、すぐに1.1からスタートし、パンチ・イン、パンチ・アウトの操作はできません。

7.2 レコーディング手順

すべての接続を正しく行ってから、次の手順に従って下さい。

- * ディスクをフロッピー・ディスクドライブに入れて下さい。フォーマットをしたり、フロッピーを外したり、レコーディングデータの空き容量を確認する必要があるかもしれません。
- * [REC] キーを押したまま、[PLAY] キーを押してください。[REC] キーのLEDが点灯し、[PLAY] キーのLEDは点滅をはじめ、レコーディングの準備ができたことを示します。録音されるソングのナンバーがディスプレイに現われます。これはディスクの最後のファイルより1多い数値です。
- * レコーディングするソングのメトローム・テンポを設定します。(この数値はレコーディングの間ずっと表示されます。デフォルトの数値は120です。[TEMPO] ボタンを押し、[INC] と [DEL] キーを使って新しい数値を設定します。[ENTER] を押して、その数値を確認し、メインページへ戻ります。あるいは[ESC] を押して数値変更を取りやめます。
N.B.: 新しいレコーディングでは、前の設定に関わらず、メトローム・テンポは常に120に設定されています。
- * [PLAY] を押してレコーディングをスタートします。[PLAY] のLEDが点滅から点灯に変わり、RD-80e はMIDI IN ポートから受信したすべてのMIDIデータのレコーディングをスタートします。レコーディング中に、[PAUSE] キーを押して、レコーディングを一時停止することができます。再び[PAUSE] キーか [PLAY] キーを押すと、データの取り込みを再開します。
- * レコーディングを終了するには、[STOP] キーを押してください。

システムはデータをフロッピー・ディスクへのセーブの実行確認を促してきます。



これはセーブして良いか(Are You Sure?) という意味です。[ENTER] を押すとRD-80e はディスクへのデータのセーブを実行します。このとき、決してドライブからフロッピー・ディスクを取り出してはいけません。

[ESC] を押すと、レコーディングされたデータはセーブされず、失われます。

注意

[STOP] キーを押すと、セーブの確認なしに、ディスプレイはすぐにメイン・ページを表示します。

これはRD-80e がMIDIデータを受信しなかったことを意味します。接続に間違いが無いか、また、送信する楽器が正しくMIDIデータを送信したかどうかを確認して下さい。

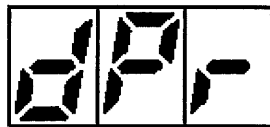
RD-80e で作ったMIDIファイルはディスクにあるファイルの最後に置かれ、次のような名前がつけられます。

`_RD_nnn.mid`

`_RD_` はファイル名の固定部分で、`nnn` は連続ナンバーです。(最後のファイル `_R_ +1`)
他にRD-80e で作ったMIDIファイルが有っても、最後のファイルはリストの最後に置かれるということを意味します。最初のファイルは `_RD_001.mid` となり、2番目のファイルは `_RD_002.mid` となります。

7.2.1 エラー・メッセージ

PROTECTED FLOPPY DISK



ファイルをセーブしようとしているディスクはライト・プロテクトがかかっています。ディスク左上のタブをクローズ・ポジションに動かしてください。もう一度ドライブに入れ、[ESC] を押してください。

DAMAGED FLOPPY DISK



ディスクが壊れていて、セーブの実行ができません。 [ESC] を押してメイン・ページへもどって下さい。

NOT ENOUGH SPACE ON DISK



ディスクに十分な容量が無く、ファイルを変更して、セーブできません。 [ESC] を押してください。ディスクに容量を空けてから、この手順を繰り返してください。

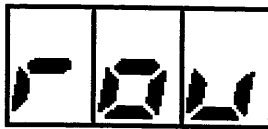
8: MIDI 部

ここでは、RD-80e の MIDI パラメーターを設定することができます。アウト・ルーター や、他の機器とのシンクロ機能などを含んでいます。

[MIDI] キーを押すと、最初のメニュー機能が現れます。

[INC] と [DEL] キーを使って、機能を選び、[ENTER] を押します。

次の機能が表示されます。



アウト・ルーター



シンク・イン



シンク・アウト

- * Out Router (アウト・ルーター): ソングの各トラック(MIDIチャンネル)からくるMIDIデータの、どれをサウンド・ジェネレーター またはMIDI OUT ポートへ送信するかを設定する機能です。
- * Sync in (シンク・イン): ジョイ・ポート [MIDI IN] ポートから受信したシンクロ・メッセージのどれを、RD-80e が認識するかを設定します。
- * Sync out (シンク・アウト): どのシンクロ・メッセージを[MIDI OUT] ポートへ送信するかを設定します。

注意

MIDI部に関連するパラメーターの変更は自動的にメモリーされます。

[ESC] キーを押すと、メイン・ページへ戻ります。

8.1 アウト・ルーター

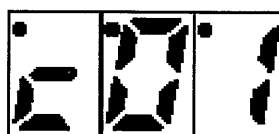
アウト・ルーター機能を使うと、各トラック (MIDIチャンネルに対応) に関連する、どのデータを、内部のサウンド・ジェネレーターか、[MIDI OUT] ポートへ送信するかを、設定することができます。

MIDI メニューから、アウト・ルーター機能を選び、[ENTER] を押します。

ディスプレイには、MIDI チャンネル 1 (トラック) の現在の設定が表示されます。



トラック 1はサウンド・ジェネレーター



トラック 1は[MIDI OUT] ポートへ送信されます

図が示すように、ディスプレイの3つの点はトラックが [MIDI OUT] ポートへ送信される状態を表示しています。

[DEL] と [INC] キーを使って、トラックを選び、[REW] (Disable) と [FF] (Enable) で、トラックデータを [MIDI OUT] ポートへ送るルートを設定できます。

重要な注意

[MIDI OUT] ポートへ割り振られたトラックは、内部サウンド・ジェネレーターでは演奏できませんが、チャンネル受信を設定した、外部MIDI機器によってのみ演奏できます。

操作が終わったら、[ESC]キーを押すと、この画面から出られます。変更はすべて自動的にセーブされます。この機能から離脱すると、そのソングは、変更を実行するためリロードされます。

8.2 SYNC IN (シンク・イン)

シンク・イン機能は、ジョイ・ポートに接続したMIDI IN ポートにある、シンクロナイゼーションに関連した、どのリアルタイム・メッセージを、RD-80e1に認識させるかを設定するものです。

リアルタイム・コードは、メッセージのコントロールや、シンクロナイゼーションに使用されるMIDIメッセージの中で、最優先されるものです。それぞれのメッセージの機能は下記の通りです。

MIDIメニューから SYNC IN 機能を選び [ENTER] を押します。

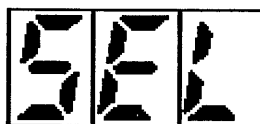
(MIDIメニューは停止状態でMIDIキーを使うことを意味します。)

(SYNC IN は画面では Sinとなります。)

ディスプレイには、設定可能な、最初のリアルタイム・メッセージが表示されます。メッセージを択ぶには [INC] と [DEL] ボタンを使います。画面は次のようになります。



MIDI クロック



ソング セレクト

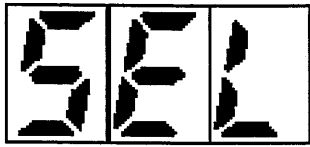


コマンド

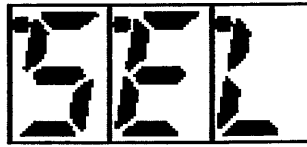


ソング・ポジション・ポイン

シンクロナイゼーション・メッセージを選択したら、[FF] (Enable) で受信を可能にするか、[REW] (Disable) で受信不可にするか、してください。ディスプレイに3つの点が出ていると、メッセージの認識ができる状態を示します。



ソング・セレクト・メッセージ受信不可



ソング・セレクト・メッセージ受信可

表示は他のシンクロナイゼーション・メッセージと同様です。

- * クロック: MIDI クロック 受信の可/不可。この機能を可能にすると、ジョイ・ポートのMIDI IN ポートに接続した送信機器によってリアルタイムで、RD-80e のテンポ数値 bpm (ビーツ・パー・ミニッツ) がアップデートされます。RD-80eがこのメッセージを見つけられないと、自分自身の内部時計に戻ります。
- * コマンド: MIDIのスタート、ストップ、コンティニュー、各メッセージの受信の可/不可をコントロールします。それぞれ、[PLAY], [STOP], [PAUSE] ボタンに対応します。この機能がオンになっていると、RD-80eは、ジョイ・ポートのMIDI IN ポートから受信したコマンドを実行します。
- * ソング・セレクト: ソング選択のMIDI メッセージ受信の可/不可。
- * ソング・ポジション・ポインター: 選択したソングの小節数を示す、MIDIメッセージ受信の可/不可。

操作が完了したら、[ESC]キーを押すと、この画面から出られます。変更事項はすべて自動的に保存されます。この機能から離脱すると、そのソングは、変更を実行するためリロードされます。

8.3 SYNC OUT (シンク・アウト)

シンク・アウト機能は特別な MIDI シンクロナイゼーション・メッセージの送信を可能にします。

MIDIメニューから SYNC OUT 機能を選び [ENTER] を押します。

(MIDIメニューは停止状態でMIDIキーを使うことを意味します。)

(SYNC OUT は画面では Souとなります。)

ディスプレイには、設定可能な、最初のリアルタイム・メッセージが表示されます。メッセージを択ぶには [INC] と [DEL] ボタンを使います。画面は次のようになります。



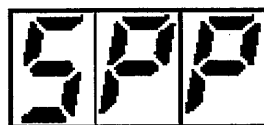
MIDI クロック



ソング セレクト

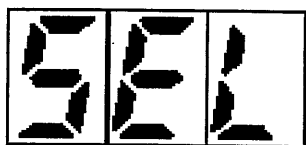


コマンド



ソング・ポジション・ポインター

シンクロナイゼーション・メッセージの選択が終わったら、[FF] (Enable) で、受信可か、[REW] (Disable) で受信不可、のどちらかを選んでください。



ソング・セレクト・メッセージ送信不可



ソング・セレクト・メッセージ送信可

ディスプレイは他のシンクロナイゼーション・メッセージと同様です。

- * クロック: MIDI クロック 送信の可/不可。RD-80e 内部のMIDIクロックをMIDI OUT ポートへの送信可/不可をコントロールします。この機能をオンにすると、MIDI OUT ポートへ接続し、受信可能になっている、他のデバイスのテンポとシンクロできます。
- * コメント: MIDIのスタート、ストップ、コンティニュー、各メッセージの送信の可/不可をコントロールします。[PLAY], [STOP], [PAUSE] ボタンが押されると、RD-80eは、MIDI OUT ポートへメッセージを送信します。
- * ソング・セレクト: ソング選択のMIDI メッセージ送信可/不可。この機能がオンになっていて、RD-80e がソングを選択していて、[ENTER]を押すと、関連するメッセージがMIDI OUTポートへ送信されます。
- * ソング・ポジション・ポインター: 選択したソングの小節数を示すポインターのMIDIメッセージを送信の可/不可をコントロールします。この機能がオンになっていて、[REW] と [FF] キーで、ソングの小節が選ばれていると、RD-80e は、その小節に達するメッセージをMIDI OUT ポートへ送信します。

操作が完了したら、[ESC]キーを押すと、この画面から出られます。変更事項はすべて自動的に保存されます。この機能から離脱すると、そのソングは、変更を実行するためリロードされます。

9. ユーティリティ

ユーティリティ セクションには、RD-80e の便利なアクセサリ機能があります。

MIDI部と同様に、これらの機能は停止状態でアクセスできます。[UTILITY] キーを押し、[INC] と [DEL] キーを使って、下記の中から選択します。



プレーモード



ディスク



ファイル



外部ディスプレイ



ビデオインターフェース



ホーカル・ハーモナイザー

- * プレーモード: オール・プレー・ソングと歌詞のマスタースイッチの状態を示します。
- * ディスク: フロッピー・ディスクのフォーマットとコピー機能にアクセスできます。
- * ファイル: ファイルのコピー、削除機能です。
- * グラフィックLCD: RD-80e に接続できるグラフィック・ディスプレイの設定にアクセスできます。
- * ビデオ インターフェース: ビデオ・インターフェースの設定用パラメーターがあります。
- * ホーカル・ハーモナイザー: リモート ホーカル・ハーモナイザーの設定用パラメーターです。

必要な機能を選んだら、[ENTER]を押して、内部のパラメーターにアクセスして下さい。
[ESC]キーを押すと、メイン・ページへもどります。

注意

グラフィック・ディスプレイ、ビデオ・インターフェース、ホーカル・ハーモナイザーの設定については、それぞれの取扱説明書をご参照下さい。

9.1 プレーモード

プレーモード機能を使って、ソングの演奏モード、つまり、オール・プレー・ソングと歌詞マスタースイッチの設定ができます。

この機能を選ぶと、ディスプレイは下記のモードを表示し、[INC]と[DEL]キーを使って、選びます。



オール・プレー・ソング



歌詞マスタースイッチ

- * オール・プレー・モード: この機能がオンになっていると、1つのソングが終わると、次のソングがロードされ、自動的に演奏します。このように、フロッピー・ディスクに保存された、最後のソングまで続けて演奏されます。
- * 歌詞マスター・スイッチ: この機能がオンになっていると、RD-80eは演奏中のソングのMIDIカラオケデータを[MIDI OUT]ポートへ送信します。グラフィックLCDディスプレイのビデオインターフェースのような周辺機器が接続されていないと、この機能は使えません。これはソングのロード時間が長くなるのを防ぐためです。

この機能をオンにするためには、[FF] (Enable) ボタンを押します。オフにするには[REW] (Disable) を押します。ディスプレイに3つの点があるときは、この機能がオンになっていることを示しています。



オール・プレーモード
機能不可



オール・プレーモード
機能可

歌詞マスタースイッチの状態も同様に表示されます。

操作が終わったら、[ESC]キーを押して下さい。変更を保存してユーティリティメニューへもどります。

9.2 ディスク機能

ユーティリティメニューでDISK(画面ではdis)を選ぶと、RD-80eで使えるフォーマットとコピー機能があります。ディスプレイに次の機能が表示されます。



720Kb (2DD)のフロッピー
の



1.44Mb (2HD)のフロッピー
の



フロッピーのフィジカルコ
ピー

[INC]と[DEL]キーを使って、機能を選び、[ENTER]を押します。

9.2.1 ディスクのフォーマット

新しいフロッピーディスクは使う前にフォーマットが必要です。RD-80eでは、パソコンやシーケンサーと同じ、MS-DOSフォーマットを使用しています。

注意

フォーマットをすると、フロッピーディスクの内容はすべて失われます。

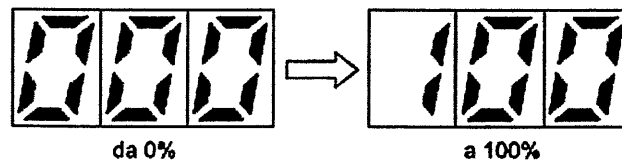
フォーマットを始める前に、フロッピーディスクが720Kb か 1.44Mb か確認して下さい。
次に、フロッピーディスクをドライブに入れ、[ENTER] ボタンを押します。操作実行の確認画面が表示されます。



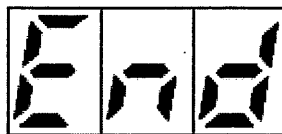
実行していいですか、という意味です。

もう一度 [ENTER] キーを押すと、フォーマットを開始します。[ENTER] の代わりに [ESC] を押せば、実行をやめて、前の画面へもどります。

フォーマットが始まると、画面は進行度合いをパーセントで示します。



フォーマット中は、RD-80e は、どのボタンも受け付けません。
フォーマットが終わると、次の表示が出ます。



フォーマットが成功したことを示しています。

注意

フォーマット中は、ディスクを取出したり、RD-80e の電源をオフにしたりしないで下さい。

フロッピーディスクのフォーマットの際には、容量に気をつけて下さい。

9.2.2 ディスクのコピー

RD-80e はファイルの種類(RD-80e に関係のないファイルを含みます。)に関わりなく、フロッピー・ディスクの内容を、同容量の別のディスクへコピーできます。

読み込み/書き込みの時間はソース・ディスク(コピー元のディスク)のデータ量とは比例しません。何故ならば、コピーの実行はコピー先のディスクのすべての内容に、元ディスクの内容を上書きするためです。そのために、コピー先のディスクの内容はすべて失われることになります。

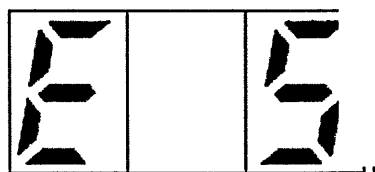
ユーティリティメニューの COPY を選んでから、ソース・ディスクを入れ、[ENTER] を押します。画面は次のようになります。



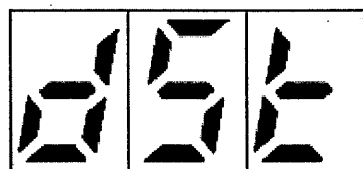
ソースディスクを入れた確認の後、次の画面になります。



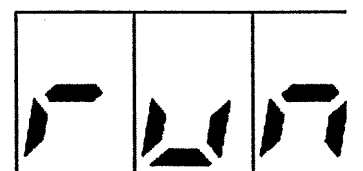
これは読み込みを開始したことを示し、続けて、システムはソース・ディスクを取り出して、



コピー先ディスクを入れるように指示してきます。



システムはコピー先ディスクに書き込みを始め、画面は次のようになります。



処理が終わると、次の画面に変わって、



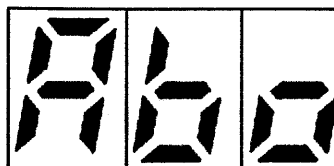
ディスクのコピーが成功したことを示します。

注意

ディスクを取出し、差込みには、充分注意して下さい。RD-80e が指示してきたときにだけ、これを行って下さい。ドライブ・ヘッドが安全な位置に移動するのに、少し時間がかかるからです。

システムの指示がある前に、コピー先のディスクを入れた場合は、のフォーマットの際には、ディスクを一度取りだして、メッセージ出るのをお待ち下さい。

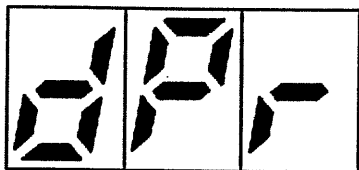
読み込み/書き込みの処理中に、[ESC] キーを押すと、コピーを中止します。ディスプレイは次のようになります。



開いているファイルを閉じるのに、少し時間がかかります。

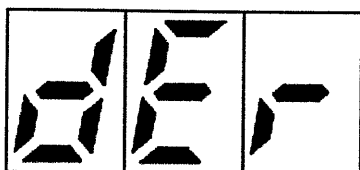
9.2.3 ディスク部のエラー・メッセージ

FLOPPY DISK PROTECTED



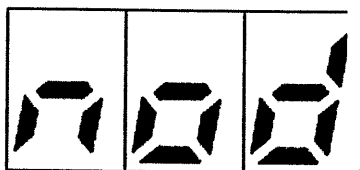
このディスクはライト・プロテクトがかかっています。データを保存したり、フォーマットしたりできません。ディスクの角のタブを閉じ、再びドライブに入れて、[ESC]を押して下さい。それから、再びコピーやフォーマットを行って下さい。

FLOPPY DISK DAMAGED - INCORRECT CAPACITY



このディスクは壊れていて使えないか、要求された容量を超えています。[ESC]を押してフロッピー・ディスクを交換し、コピーやフォーマットを行って下さい。

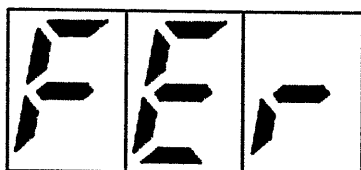
FLOPPY DISK NOT INSERTED



ドライブにフロッピー・ディスクが入っていないので、要求された作業は実行できません。もしもディスクが入っている場合は、しばらく待ち(システムがフロッピー・ディスクを認識する時間が必要です。)、再度、オペレーションを繰り返して下さい。あるいは一度、フロッピー・ディスクを抜き差しして下さい。

[ESC]を押してメニューへ戻るか、フロッピー・ディスクを差込んで、再度試みて下さい。

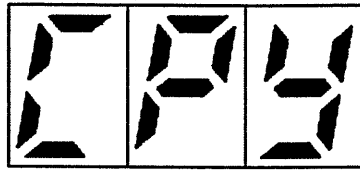
FORMATTING ERROR



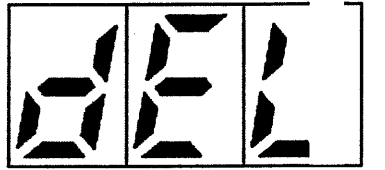
フォーマット中にエラーが起きました。作業を完了できません。ディスクが使えないかも知れません。[ESC]を押して、ユーティリティメニューへもどって下さい。

9.3 ファイル機能

ユーティリティメニューからファイル(Fil)へ入ると、2つの機能へアクセスできます。



シングル・ファイルをコピーする



シングル・ファイルをデリートする

- * ファイル・コピー: 1つのフロッピー・ディスクにある1個以上のファイルを他のフロッピー・ディスクにコピーする機能です。
- * ファイル・デリート: ディスクに保存したファイルをデリートする機能です。

[SONG] あるいは [LIST] ボタンを押して、コピーまたはデリートしたいファイルのタイプを選べます。

9.3.1 ファイルをコピーする

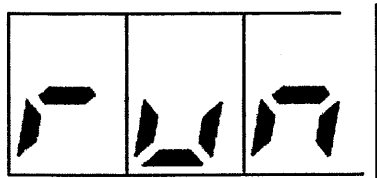
ファイル・コピー機能を選ぶと、[INC] と [DEC] ボタンを使って、コピーしようとするソング・ナンバーまたはリストを選ぶことができます。([SONG] と [LIST] ボタンはファイル・タイプを選びます。)

重要な注意

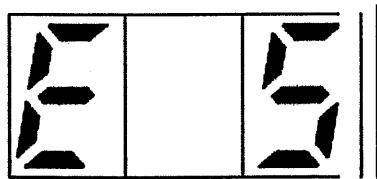
コピー先のディスクがコピーしようとしているファイルと同じ名前のファイルをもっている場合はシステムは今あるファイルを上書きします。

選択が終わったら、[ENTER]を押してディスプレイに表示されたファイルに対応するナンバーによってコピーを実行します。

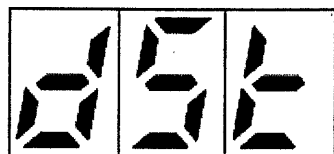
データ読み込みの間に、下記の画面が現れます。



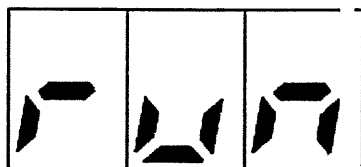
次に、システムは元ディスクを取出すように指示してきます。



それから、コピー先ディスクを入れて下さい。

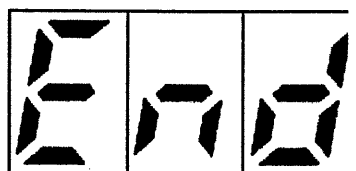


すぐに、データはコピー先ディスクに書きこまれます。



書込みが終わると、システムはコピー先ディスクを取りだして、他のファイルをコピーする必要があれば、元ディスクを入れるように指示してきます。

元ディスクを入れると、ディスプレイは次のようになります。

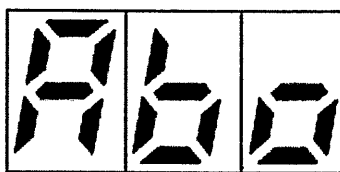


これはコピーが成功した確認です。

ファイル選択画面が再び現れて、別のコピーを続行することができます。

読込み/書込みの処理中に、[ESC] キーを押すと、ファイルのコピーを中止します。

ディスプレイには次の画面が出ます。



開いているファイルを閉じるには時間がかかります。中止した機能を取り消すには、有効なフロッピーディスクを入れて下さい。

注意

ディスクの抜き差しは、システムが指示したときのみ、細心の注意を払って行って下さい。

ドライブ・ヘッドが安全な位置に移動するのに、少し時間がかかるからです。

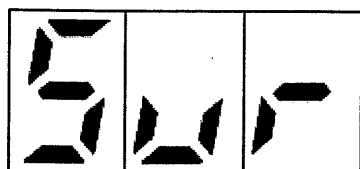
システムの指示がある前に、コピー先のディスクを入れた場合は、フォーマットの際には、ディスクを一度取りだして、メッセージ出るのをお待ち下さい。

9.3.2 ファイルのデリート

ファイル・デリート機能を選ぶと、[INC] と [DEC] ボタンを使って、デリートしたいソング、またはリストを選ぶことができます。(ファイルの種類を選ぶ場合は、[SONG] と [LIST] ボタンを使います。)

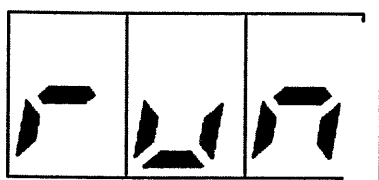
選んだら、[ENTER] を押して、ディスプレイに表示された番号に対応するファイルのデリートを実行します。

ディスプレイには実行確認の画面が出ます。

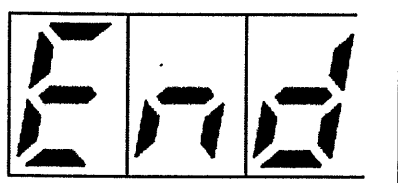


これは Are you sure? の意味です。[ENTER] を押すと、実行を確認し、[ESC] を押すと中止します。

[ENTER] を押した場合はファイルはディスクから完全にデリートされます。実行中には、次の画面が出ます。



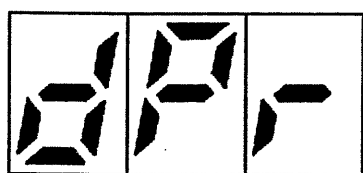
実行が終わると、次の画面になります。



デリートが成功したことを表示します。

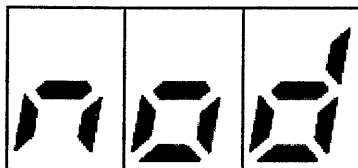
9.3.3 ファイル部のエラー・メッセージ

DISK PROTECTED



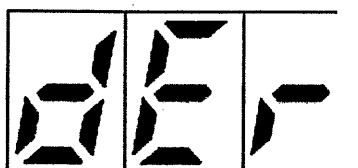
このディスクはライト・プロテクトがかかっています。データを保存したり、フォーマットしたりできません。ディスクの角の矢印を閉じ、再びドライブに入れて、[ESC] を押して下さい。

DISK NOT IN DRIVE



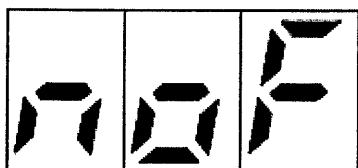
ドライブにディスクが入っていません。指示されたオペレーションは実行できません。もしもフロッピー・ディスクが入っている場合は、しばらく待って(RD-80e がフロッピー・ディスクを認識する時間です) から、再度試して下さい。あるいは一度ディスクを抜き差ししても良いです。この画面から出るには [ESC] を押します。

DISK ERROR



ディスクが壊れているか、使用できない状態です。[ESC] を押してフロッピー・ディスクを交換して下さい。

NO FILE



フロッピー・ディスクにソング・カリストが含まれていない場合にこのメッセージが現れます。従ってコピーやテリートのために、ファイルを選ぶことはできません。

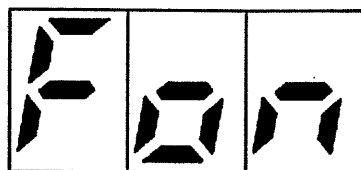
9.4 グラフィック・ディスプレイ(オプション)のコントロール

RD-80eの背面のジョイ・ポートへ、ホイス・システムのLVD液晶ディスプレイ(オプション)を接続できます。グラフィック・ディスプレイには演奏している部分の歌詞も表示されます。接続方法は4をご参照下さい。

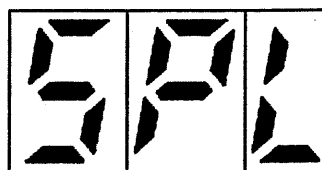
注意

LVDディスプレイで歌詞を表示するためには、歌詞マスタースイッチをオンにしなければなりません。この機能の設定は9.1をご覧ください。

ユーティリティメニューで、[INC]と[DEC]ボタンを使ってLCDビデオページを選び、[ENTER]を押して下さい。フォントとカラオケのスペルタイプ選択機能へアクセスできます。



Font Type



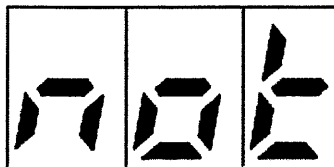
Spelling Type

- * フォントタイプ: LVDディスプレイに表示される文字サイズを選択できます。
- * スペルタイプ: カラオケのスペルタイプ(演奏される歌に想定されるスペルタイプ)を選択できます。

必要な機能を選んで、[ENTER]を押すと、セッティング画面へアクセスできます。

注意

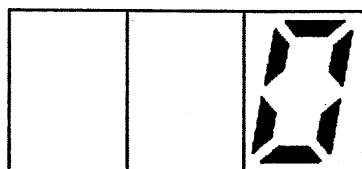
これらの機能はLVDディスプレイが正しく接続されているときにのみ有効です。接続していないと、次の表示が出ます。



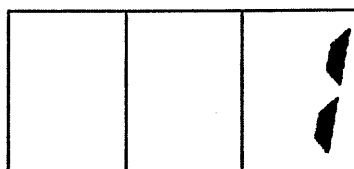
これはインストールされていません、という意味です。

9.4.1 フォントタイプを選ぶ

ディスプレイに表示される歌詞のフォントタイプを設定するには、フォントタイプ機能(画面ではFon)を選び、[ENTER]を押して下さい。最後に選んだフォントが表示されます。



Normal Font

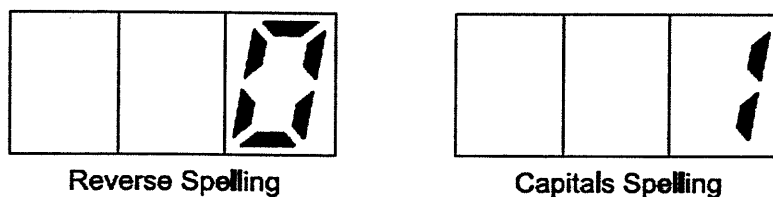


Big Font

[INC]と[DEC]ボタンを使って、文字サイズを選び、[ESC]を押します。これでユーティリティメニューへ戻ります。設定は自動的に保存されます。

9.4.2 スペル・タイプを選ぶ

グラフィック・ディスプレイでは、スペル・タイプの設定もできます。スペル・タイプ機能(画面はSpI)を呼び出すと、画面は次のようになります。



* リバース(反転): カラオケが反転文字で表示されます。

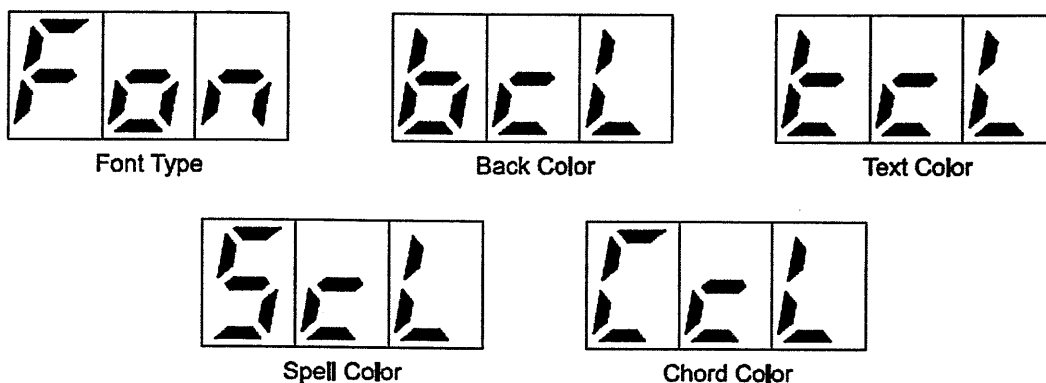
* 大文字: カラオケが大文字/小文字で表示されます。

選んだら、[ESC] を押すと、この機能を終了して、ユーティリティ・メニューへ戻ります。設定は自動的に保存されます。

9.5 ビデオ・インターフェースに関連した設定

演奏中のソングの歌詞を、通常のテレビで見たい場合は、ボイス・システムのHVPまたはVIPをRD-80e につなぐことができます。

ユーティリティ・メニューから、ビデオ・インターフェース (画面ではInt) を選び、[ENTER] を押します。ディスプレイにはHVP,VIP設定画面が表示されます。



* フォント・タイプ: テレビに表示される文字サイズの設定。

* バック・カラー: テレビスクリーンの背景色の設定。

* テキスト・カラー: 歌詞の色の設定。

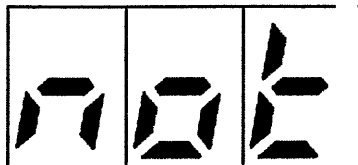
* スペル・カラー: 想定されたソングが演奏されている場合、スペルに関連する歌詞の色の設定。

* コード・カラー：歌詞と一緒に表示される、コードの色の設定。

[DEC] と [INC] キーを使って、機能を選び、[ENTER] を押すと、その設定が表示されます。

注意

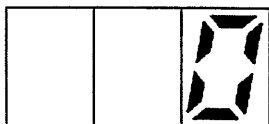
これらの機能はHVPかVIPが正しく接続されているときにのみ有効です。
接続していないと、次の表示が出ます。



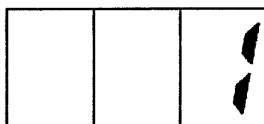
これはインストールされていません、という意味です。4.の接続をご参照下さい。

9.5.1 フォント・タイプを選ぶ

フォント・タイプ(画面ではFon)を選んだら、テレビに表示される歌詞のサイズを調整できます。画面は次のようになります。



Normal Font



Big Font



Extra-Big Font

ノーマル・フォント: 大画面テレビに合うノーマルサイズです。

ビッグ・フォント: 中型ディスプレイに合う大きな文字です。

エクストラ・ビッグ・フォント: 小型スクリーンに合う、ビッグ・フォントより大きい文字です。

選んだ後で、[ESC] キーを押すと、この機能を終了して、設定を保存します。

9.5.2 色の選択

テレビの色の設定(バック・カラー、テキスト・カラー、スペル・カラー、コード・カラー)が終わったら、[ENTER] を押して下さい。ディスプレイには、呼び出された機能のカラーに関連する番号が表示されます。

次ページの表は使用できるカラーの数値をリストアップしています。

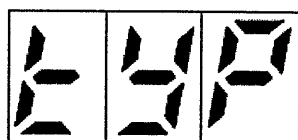
Color #	Back Color	Text Color	Spell Color	Chord Color
1	Black	Black	Black (reverse)	Black
2	Navy	Navy	Navy (reverse)	Navy
3	Red	Red	Red (reverse)	Red
4	Pink	Pink	PinK (reverse)	Pink
5	Green	Green	Green (reverse)	Green
6	Blue	Blue	Blue (reverse)	Blue
7	Yellow	Yellow	Yellow (reverse)	Yellow
8	White	White	White (reverse)	White
9			Black	
10			Navy	
11			Red	
12			Pink	
13			Green	
14			Blue	
15			Yellow	
16			White	

設定が保存されます。

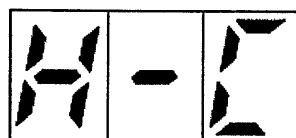
9.6 ホール・カル・ハーモナイザー

個々では、ホール・カル・ハーモナイザーの設定について説明します。
 接続についての詳しい説明は、4. 接続 の項をご覧ください。

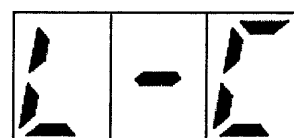
ホール・カル・ハーモナイザー(画面はHar)を選ぶと、設定画面へアクセスできます。機能に関連した画面は下通りです。



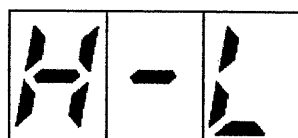
Type



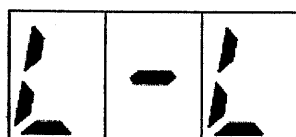
Harmony Channel



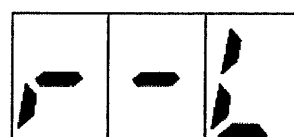
Lead Channel



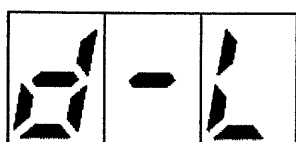
Harmony Level



Lead Level



Reverb Level

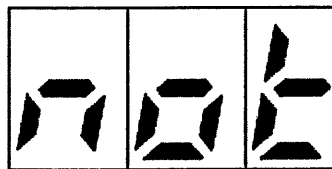


Delay Level

- * タイプ：ハーモナイゼーションのタイプを選択する機能です。
- * ハーモニーチャンネル：HVPが受信するハーモナイゼーションのデータをどのMIDIチャンネルへ割り振るかを設定する機能です。
- * リードチャンネル：(リードモードがオンになっているとき)、メロディラインのオートチューニングが実行されるMIDIチャンネルの設定機能です。
- * ハーモニーレベル：ハーモナイゼーションのボイスレベルを設定する機能です。
- * リードレベル：メロディラインのオートチューニングに使うボイスのレベル設定をする機能です。
- * リバースレベル：室内の音の伝播をシミュレートした、リバース効果のレベルを設定する機能です。
- * デイレーレベル：信号の繰返しによって得られる、デイレー効果（通常、エコー効果と呼ばれます）レベル設定に使用します。

注意

これらの機能はHVPボイスハーモナイザーが正しく接続されているときにのみ有効です。接続していないと、次の表示が出ます。

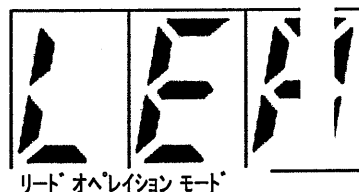
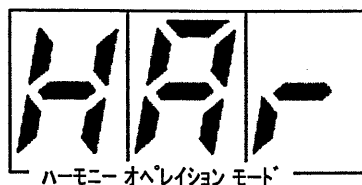


これはインストールされていません、という意味です。

機能を選んだ後、[ENTER] を押して、内部の設定へアクセスできます。

9.6.1 ハーモナイゼーションのタイプ

タイプ機能(画面はTyp) を選ぶと、ハーモナイゼーションのタイプを選ぶことができます。



選んだら [ESC] を押して、メニューへ戻ります。設定は自動的に保存されます。

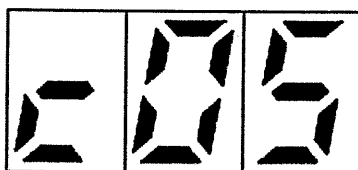
9.6.2 ハーモナイザー-MIDI受信チャンネルの設定

ハーモニーチャンネル(画面はH-C)とリードチャンネル(画面L-L)機能を使って、HVPのハーモニーチャンネルとリードチャンネルそれぞれの、MIDIチャンネルを設定できます。

ハーモニーチャンネルには、ボイスのハーモニゼーションのためのコードが含まれています。一方、リードチャンネルには、ソングのメロディラインが含まれています。

リードタイプハーモニゼーションが使われていると、リードチャンネルだけが存在します。(選択手順は、9.6.1参照)

この機能を選ぶと、現在のMIDIチャンネルがディスプレイに表示されます。



この例では、選ばれたチャンネル(リードまたはハーモニー)は、MIDIチャンネル 5に設定されています。[DEC]と[INC]ボタンを使って、MIDIチャンネルを選び、[ESC]を押して下さい。設定が保存されて、ディスプレイはユーティリティメニューへ戻ります。

9.6.3 レベルの設定

ハーモニーレベル、リードレベル、リハープレベル、テイルレベル、各機能(画面ではそれぞれ、H-L, L-L, r-L, d-L)で、それぞれのレベルを調整できます。リハープとテイル効果はマイクからのオリジナル信号から、ボイスハーモナイザーへつないだ機器にも効果があります。

リードチャンネルは、リードタイプのハーモニゼーションが使われるときだけに、現れます。(選択方法は、9.6.1参照)

機能を選ぶと、ディスプレイには現在のレベルが表示されます。この数値は[DEC]と[INC]ボタンを使って修正できます。レベルの適用される数値の範囲は127から0までです。(0はHVP存在しない場合です。)

これらのオペレーションを完了するには、[ESC]キーを押して下さい。設定が保存されて、ディスプレイはユーティリティメニューへ戻ります。

10. リスト

リストは、RD-80e がロードし、自動的に次々と演奏する、すでに作られた一連のソングのシーケンスです。このシーケンスはユーザーがプログラムでき、LISTファイル(LST)の形で保存できます。

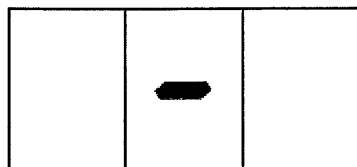
RD-80e 作ったリストには、演奏されるファイル名を含む各段階からできています。(ファイルナンバーは表示されません。) このため、後で、ディスクにソングが追加されても、リストは正しく演奏します。

ソングの各シーケンスは、64段階までのステップをもっています。言い返れば、64ソングまで連結できます。

10.1 リストを作る

リストにはフロッピー・ディスクに保存されたソングが含まれています。リストを作りたいソングを含むディスクを入れて下さい。

停止状態で、ソング・モードを選び、[LIST] キーを長押しします。[LIST] のLEDが点滅をはじめます。[SONG] のLEDは点灯したままになります。(選んだソングをステップに割り振らなければなりません) ディスプレイは次のようになります。



これは、リストの最初のステップには何もないことを示しています。

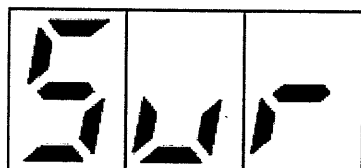
[REW] と [FF] ボタンを使って、最初のステップへ入れるソングを選びます。選んだら、[ENTER] を押して下さい。システムはそのステップをセーブし、その後、別のステップを追加します。画面はエンパティを示します。

[ESC] を押すと、表示されたステップのデータはデリートされ、次のステップが移動します。ステップを空のままにしておくと、リストの演奏の際は無視されます。

リスト全体が完成するまで、上記の手順を繰返して下さい。

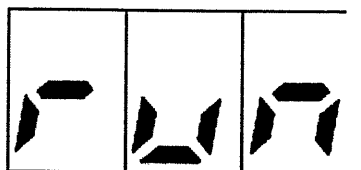
10.2 リストをセーブする

リストの作成時には、[REC] (SAVE) キーを押すと、いつでもリストをフロッピー・ディスクに保存できます。ディスプレイは次のようになります。



これは、確かに、実行して良いですか、という意味です。

[ENTER] を押すと、セーブを実行します。[ESC] を押すと、セーブを取りやめます。セーブ実行中、画面は次のようになります。



実行が終了すると、リスト選択画面へ戻ります。

セーブしないでリストの作成をやめる場合は、[LIST] キーを押して下さい。

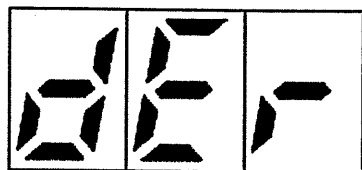
RD-80e で作ったリスト・ファイルは、すでにディスクにある、リストの後ろに置かれ、次のような名前がつきます。

`_RD_nnn.lst`

`_R_` はファイル名の固定部分で、`nnn` は連続番号です。(最後のファイルは `_R_+1` となります。) これは、作られたファイルは常に最後に置かれることを意味しています。たとえば、はじめのファイル名が `_R_001.lst` だと、次のファイル名は `_R_002.lst` となります。

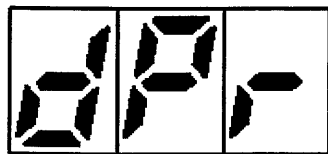
10.2.1 セーブ・リストのエラーメッセージ

DISK ERROR



ディスクが壊れています。セーブを実行できません。

DISK PROTECTED



リストを選びセーブしようとしているディスクはライト・プロテクトがかかっています。ディスクの角のタブを閉じ、再びドライブに入れて、[ESC] を押して下さい。

DISK FULL



このディスクには、今作ったリストをセーブする十分な空き容量がありません。

10.3 リストを演奏する

リストを選ぶには、メイン画面から [LIST] ボタンを押し、[INC] と [DEL] キーを使って、リストの番号を選びます。次に [ENTER] を押します。

[PLAY] キーを押すと、リストの最初のソングが演奏されます。最初のソングが終わると、2番目のソングが自動的にロードされ、演奏されます。そのようにして最後のソングまで演奏されます。

[STOP] を押すと、演奏中のソングが中断され、リストの最初のソングが再度ロードされます。

ソング・モードへもどるには、パネルの同じ名前のキーを押し、[ENTER] を押します。

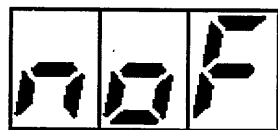
注意

リストの中のいくつかのソングがデリートされていると、リストの演奏中には無くなったソングがあったステップは飛ばされます。ファイルをデリートするときには、この点にご注意下さい。

リストの演奏中には、フロッピー・ディスクをに抜き出さないで下さい。

10.3.1 プレー・リストのエラー・メッセージ

NO FILE



挿入したフロッピー・ディスクには、リスト ファイルはありません。

NO SONG



リストにソングがないか、選んだソングはフロッピー・ディスクに保存されていません。

NOT PLAYTABLE SONG



演奏しようとしているリストのソングはMIDIファイル スタンダード・コードではありません。あるいはMIDI フォーマット1のファイルは16トラック以上になっています。

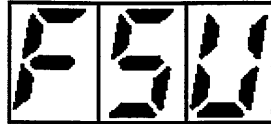
10.4 リスト・ファイル 管理

これまで、どのようにすれば、フロッピー・ディスクに保存したソングファイル(.mid)をコピーしたり、保存したりできるか、みてきました。リストについてもまったく同様に、フロントパネルの[LIST] ボタンを押すとこれらのオペレーションができます。
[SONG] を押すと、.mid ファイルの管理画面へもどります。

11. アクセサリー機能

11.1 ファクトリー・セッティング

これは、使用者が行った変更をすべて消去して、購入時の状態にもどす機能です。
[REC] ボタンを押したまま、RD-80e の電源をオンにします。次の画面が現れます。



これは、ファクトリーセッティング・アップ という意味です。
パラ: は下記の表のように設定されています。

REAL TIME FUNCTIONS

Volume Mode = NRPN
Volume Level = 127
Tempo = Off
Tempo Variation = 120%
Mute = Off
Mute Settings = track 4 only
Transpose = Off
Transpose BIAS = +2

MIDI FUNCTIONS

Router = all track disabled
Sync In = all function disabled
Sync Out = MIDI Clock only enabled

PLAY MODE FUNCTIONS

All Play Song = Off
Lyrics Master Switch = Off

LCD SETTINGS

Font = 0 (Norm)
Spelling Type = 0 (Reverse)

VIDEO INTERFACE SETTINGS

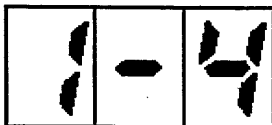
Font = 1
Background Color = 1 (black)
Text Color = 8 (white)
Spelling Color = 11 (red)
Chord Color = 5 (green)

HARMONIZER SETTINGS

Type = Harmony
Harmony Channel = 5
Lead Channel = 4
Harmony Channel Level = 100
Lead Channel Level = 80
Reverb Level = 64
Delay Level = 0

11.2 ソフトウェア リリース・ナンバーの表示

現在のソフトウェアのリリース・ナンバーを表示するには、[PAUSE] ボタンを押したまま、電源をオンにします。約3秒間、現在のオペレーティング・システムが表示されます。



その後で、システムは通常のスタート・アップを開始します。

11.3 スタンバイ機能

これはRD-80e をスタンバイモードにする機能です。

[STOP] (STAND-BY) ボタンを3秒間押し続けます。

RD-80e をふたたび起動するには[ENTER]を押してください。

(ストップ・ボタンのLEDが点灯して、スタンバイ状態にあることを示します。

12. アップデイト

オペレーティング・システムのアップデイト

RD-80e のオペレーティング・システムは内部メモリにあります。

アップデイトの作業は簡単にすばやくできます。

RD-80e の電源を切り、新しいオペレーティング・システムのファイルの入ったフロッピー・ディスクを入れます。電源をオンにすると次の画面が現れます。



これはアップデイトの意味です。RD-80e がシステム・ファイルを見つけて、読み込み、セーブ、オペレーションの検証を行っていることを示しています。

セーブと検証は、RD-80e がオペレーション・システム無しに行う、大変デリケートな作業です。

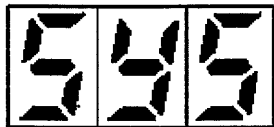
したがって、この作業中はRD-80e の電源は絶対に切らないで下さい。もしも電源を切ると、システムはうまく作動しない場合が生じます。その場合はインストールをはじめからやり直して下さい。

作業が正しく終了すると、ディスプレイにはメイン・ページが表示されます。

注意

オペレーティング・システムを含むファイルは、DATA_80.sys という名前です。この名前は変えないで下さい。

アップデイト中に下記の画面が現れたら、



フロッピー・ディスクが壊れているか、無効のアップデイト・ファイルが含まれています。



SOUND VARIATION

(all channels except 10)

PG	GENERAL MIDI	Bank Select MSB	1st VARIATION	Bank Select MSB	2nd VARIATION	Bank Select MSB	3rd VARIATION
0	Grand Piano	8	Piano 1w	10	Piano 1d		
1	Bright Piano						
2	E. Grand Piano						
3	Honky Tonk						
4	Electric Piano 1	8	Detune El. Piano 1	16	Electric Piano 1v	24	60's Electric Piano
5	Electric Piano 2	8	Detune El. Piano 2	16	Electric Piano 2v		
6	Harpichord 1	8	Coupled Hps.			24	Harpis o
7	Clavinet						
8	Celesta						
9	Gloken						
10	Music Box						
11	Vibes						
12	Marimba						
13	Xylopon						
14	Chimes	8	Church Bell	9	Carillon		
15	Dulcimer						
16	Drawbar Organ	8	Detune Organ 1	16	60's Organ 1	32*	Organ 4
17	Jazz Organ 1	8	Detune Organ 2			32*	Organ 5
18	Rock Organ 1						
19	Church Organ 1	8	Church Organ 2	16	Church Organ 3		
20	Reed Organ						
21	Musette	8	Accordion (Italian)				
22	Harmonica						
23	Tango Accordion						
24	Nylon Guitar	8	Ukelele	16	Nylon Guitar o	32*	Nylon Guitar 2
25	Steel Guitar	8	12 Strings Guitar	16	Mandolin		
26	Jazz Guitar	8	Hawaiian Guitar				
27	Clean Guitar 1	8	Chorus Guitar				
28	Muted Guitar	8	Funk Guitar	16	Funk Guitar 2		
29	Overdrive Guitar						
30	Distort. Guitar	8	Feedback Guitar				
31	Guitar Harmonics	8	Guitar Feedback				
32	Acoustic Bass 1						
33	Finger Bass	8	Finger Bass 2				
34	Pick Bass	8	Picked Bass 2				
35	Fretless 1						
36	Slap Bass 1						
37	Slap Bass 3						
38	Synth Bass 1	1	Syn Bass 101	8	Synth Bass 3		
39	Synth Bass 2	8	Synth Bass 4	16	Rubber Bass		
40	Violin 1	8	Slow Violin				
41	Viola						
42	Violoncello						
43	Double Bass						
44	Tremolo Strings						
45	Pizzicato						
46	Harp						
47	Timpani						
48	String Ensemble 1	8	Orchestra				
49	String Ensemble 2						
50	Synth Strings 1	8	Syn Strings 3				
51	Synth Strings 2						
52	Choir Aah	32*	Choir Aahs 2				
53	Voice Ooh						
54	Syn Voice	8	Synth Voice 2				
55	Orchestra Hit						

32*: this variations obtain also with Bank Select MSB=24



SOUND LIST

MAIN SOUND – GENERAL MIDI

(all channels except 10)

PG	GENERAL MIDI	PG	GENERAL MIDI	PG	GENERAL MIDI	PG	GENERAL MIDI
0	Grand Piano	32	Acoustic Bass 1	64	Soprano Sax	96	Rain
1	Bright Piano	33	Finger Bass	65	Alto Sax 1	97	Soundtrack
2	E. Grand Piano	34	Pick Bass	66	Tenor Sax	98	Crystal
3	Honky Tonk	35	Fretless 1	67	Baritone Sax	99	Atmosphere 1
4	Electric Piano 1	36	Slap Bass 1	68	Oboe	100	Brightness
5	Electric Piano 2	37	Slap Bass 3	69	English Horn	101	Goblins
6	Harpichord 1	38	Synth Bass 1	70	Bassoon	102	Echoes
7	Clavinet	39	Synth Bass 2	71	Clarinet 1	103	Sci-fi
8	Celesta	40	Violin 1	72	Piccolo	104	Sitar
9	Clock	41	Viola	73	Flute	105	Banjo
10	Music Box	42	Violoncello	74	Recorder	106	Shamisen
11	Vibes	43	Double Bass	75	Pan Flute	107	Koto 1
12	Marimba	44	Tremolo Strings	76	Blow Bottle	108	Kalimba
13	Xylophon	45	Pizzicato	77	Shakuhachi	109	Bag Pipe
14	Chimes	46	Harp	78	Whistle	110	Fiddle
15	Dulcimer	47	Timpani	79	Ocarina	111	Shanai
16	Drawbar Organ	48	String Ensemble 1	80	Square 1	112	Tinkle Bell
17	Jazz Organ1	49	String Ensemble 2	81	Sawtooth 1	113	Agogo
18	Rock Organ 1	50	Synth Strings 1	82	Calliope	114	Steel Drum
19	Church Organ 1	51	Synth Strings 2	83	Chiff	115	Woodblock
20	Reed Organ	52	Choir Aah	84	Charang	116	Taiko Drum
21	Musette	53	Voice Ooh	85	Voice	117	Melodic Tom 1
22	Harmonicá	54	Syn Voice	86	Fifths	118	Synth Drum 1
23	Tango Accordion	55	Orchestra Hit	87	Bass Lead 1	119	Reverse Cymbal
24	Nylon Guitar	56	Trumpet 1	88	Fantasy 1	120	Guitar Fretnoise
25	Steel Guitar	57	Trombone 1	89	Warm Pad	121	Breath Noise
26	Jazz Guitar	58	Tuba	90	Polysynth	122	Seashore
27	Clean Guitar 1	59	Mute Trumpet	91	Choir	123	Bird Tweet
28	Muted Guitar	60	French Horn 1	92	Bowed	124	Telephone 1
29	Overdrive Guitar	61	Brass	93	Metallic	125	Helicopter
30	Distort. Guitar	62	Syn Brass 1	94	Halo	126	Applause
31	Guitar Harmonics	63	Syn Brass 2	95	Sweep	127	Gunshot

RD-80e
DATA FILER



	Prog 26: HQ TR808 SET	Prog 27: HQ DANCE SET	Prog 33: JAZZ SET	Prog 41: BRUSH	Prog 49: ORCHESTRA	Prog 57: SFX SET
27 - D#1					Closed Hi Hat	*
28 - E1					Pedal Hi Hat	*
29 - F1					Open Hi Hat	*
30 - F#1					Ride Cymbal	*
31 - G1						*
32 - G#1						*
33 - A1						*
34 - A#1						*
35 - B1	HQ 909 BD	HQ Dance Kick	Jazz BD2	Jazz BD2	Concert BD2	*
36 - C2	HQ 808 BD	HQ Elec Kick2	Jazz BD1	Jazz BD1	Concert BD1	*
37 - C#2	808 Rim Shot					
38 - D2	808 Snare Drum	HQ Dance Snare1		Brush Tap	Concert SD	*
39 - D#2				Brush Slap	Castanets	High Q
40 - E2	HQ 909 Snare	HQ Dance Snare1		Brush Swirl	Concert SD	Slap
41 - F2	808 Low Tom2	Elec Low Tom2			Timpani F	Scratch Push
42 - F#2	808 CHH [EXC1]	808 CHH [EXC1]			Timpani F#	Scratch Pull
43 - G2	808 Low Tom1	Elec Low Tom1			Timpani G	Sticks
44 - G#2	808 CHH [EXC1]	808 CHH [EXC1]			Timpani G#	Square Click
45 - A2	808 Mid Tom2	Elec Tom2			Timpani A	Metronome Click
46 - A#2	808 OHH [EXC1]	808 OHH [EXC1]			Timpani A#	Metronome Bell
47 - B2	808 Mid Tom1	Elec Mid Tom1			Timpani B	Guitar Slide
48 - C3	808 Hi Tom2	Elec Hi Tom2			Timpani C	Gt Out Noise (down)
49 - C#3	808 Cymbal				Timpani C#	Gt Out Noise (up)
50 - D3	808 Hi Tom1	Elec Hi Tom1			Timpani D	Double Bass Up
51 - D#3					Timpani D#	Key Click
52 - E3		Reverse Cymbal			Timpani E	Laughing
53 - F3					Timpani F	Screaming
54 - F#3						Punch
55 - G3						Heart Beat
56 - G#3	808 Cowbell					Footsteps1
57 - A3					Concert Cymbal2	Footsteps2
58 - A#3						Applause
59 - B3					Concert Cymbal1	Door Creaking
60 - C4						Door Closing
61 - C#4	808 High Conga					Wind Chime
62 - D4	808 Mid Conga					Car Engine Start
63 - D#4	808 Low Conga					Car Pass
64 - E4						Car Breaking
65 - F4						Car Pass
66 - F#4						Car Crash
67 - G4						Police Siren
68 - G#4						Train
69 - A4						Jet Take-off
70 - A#4	808 Maracas					Helicopter
71 - B4						Starship
72 - C5						Gun Shot
73 - C#5						Machinegun
74 - D5						Lasergun
75 - D#5	808 Claves					Explosion
76 - E5						Dog
77 - F5						Horse Gallop
78 - F#5						Birds



RD-80e
DATA FILER

	Prog 65: STANDARD SET	Prog 73: ROOM SET	Prog 81: POWER SET	Prog 89: ELECTR. SET	Prog 90: TR-808 SET
27 - D#1	High Q				
28 - E1	Slap				
29 - F1	Scratch Push				
30 - F#1	Scratch Pull				
31 - G1	Sticks				
32 - G#1	Square Click				
33 - A1	Metronome Click				
34 - A#1	Metronome Bell				
35 - B1	Kick Drum2/Jazz BD2				
36 - C2	Kick Drum1/Jazz BD1		Power Kick	Elec BD	808 Bass Drum
37 - C#2	Side Stick				808 Rim Shot
38 - D2	Snare Drum1		Gated Snare	Elec SD	808 Snare Drum
39 - D#2	Hand Clap				
40 - E2	Snare Drum2			Gated Snare	
41 - F2	Low Floor Tom	Room Low Tom2	Room Low Tom2	Elec Low Tom2	808 Low Tom2
42 - F#2	Closed Hi Hat [EXC1]				808 CHH [EXC1]
43 - G2	High Floor Tom	Room Low Tom1	Room Low Tom1	Elec Low Tom1	808 Low Tom1
44 - G#2	Pedal Hi Hat [EXC1]				808 CHH [EXC1]
45 - A2	Low Tom	Room Mid Tom2	Room Mid Tom2	Elec Mid Tom2	808 Mid Tom2
46 - A#2	Open Hi Hat [EXC1]				808 CHH [EXC1]
47 - B2	Low Mid Tom	Room Mid Tom1	Room Mid Tom1	Elec Mid Tom1	808 Mid Tom1
48 - C3	Hi Mid Tom	Room Hi Tom2	Room Hi Tom2	Elec Hi Tom2	808 Hi Tom2
49 - C#3	Crash Cymbal 1				808 Cymbal
50 - D3	High Tom	Room Hi Tom1	Room Hi Tom1	Elec Hi Tom1	808 Hi Tom1
51 - D#3	Ride Cymbal1				
52 - E3	Chinese Cymbal			Reverse Cymbal	
53 - F3	Ride Bell				
54 - F#3	Tambourine				
55 - G3	Splash Cymbal				
56 - G#3	Cowbell				808 Cowbell
57 - A3	Crash Cymbal 2				
58 - A#3	Vibraslap				
59 - B3	Ride Cymbal 2				
60 - C4	Hi Bongo				
61 - C#4	Low Bongo				
62 - D4	Mute High Conga				808 High Conga
63 - D#4	Open High Conga				808 Mid Conga
64 - E4	Low Conga				808 Low Conga
65 - F4	High Timbale				
66 - F#4	Low Timbale				
67 - G4	High Agogo				
68 - G#4	Low Agogo				
69 - A4	Cabasa				
70 - A#4	Maracas				
71 - B4	Short Whistle [EXC2]				
72 - C5	Long Whistle [EXC2]				
73 - C#5	Short Guiro [EXC3]				
74 - D5	Long Guiro [EXC3]				
75 - D#5	Claves				808 Claves
76 - E5	High Wood Block				
77 - F5	Low Wood Block				
78 - F#5	Mute Cuica [EXC4]				
79 - G5	Open Cuica [EXC4]				
80 - G#5	Mute Triangle [EXC5]				
81 - A5	Open Triangle [EXC5]				
82 - A#5	Shaker				
83 - B5	Jinge Bell				

MIDI IMPLEMENTATION CHART – Data Filer Section -

Voice Systems RD80e
Data Filer

Date: 11/10/2000
Version: 1.0

FUNCTION ...		TRANSMITTED	RECOGNIZED	REMARKS
BASIC CHANNEL	DEFAULT CHANGED	1-16 X	1-16 X	
MODE	Default Messages Altered	Mode 3		
NOTE NUMBER	True Voice	0-127	0-127	
VELOCITY	Note ON Note OFF	O O	O O	
AFTER TOUCH	Key's Ch's	O O	O O	
PITCH BENDER		O	O	
CONTROL CHANGE	0-127	O	O	
PROGRAM CHANGE	True #	O	O	
SYSTEM EXCLUSIVE		O	O	
SYSTEM COMMON	Song Pos	O	O	(1)
	Song Sel	O	O	(1)
	Tune	X	X	
SYSTEM REAL TIME	Clock Commands	O O	O O	(1) (1)
AUX MESSAGES	Local On-Off	X	X	
	All note Off	O	O	
	Active Sense	X	X	
	Reset	X	X	
NOTES: (1) = If SYNC is enabled – See MIDI SYNC Section				

Mode 1: Omni On, Poly
Mode 3: Omni Off, Poly

Mode 2: Omni On, Mono
Mode 4: Omni Off, Mono

O = YES
X = NO

MIDI IMPLEMENTATION CHART – Sound Generator Section -

Voice Systems RD80e
Data Filer

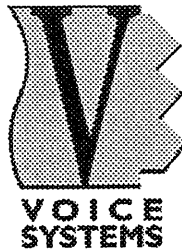
Date: 11/10/2000
Version: 1.0

FUNCTION ...		TRANSMITTED	RECOGNIZED	REMARKS
BASIC CHANNEL	DEFAULT CHANGED	X	1-16	
		X	X	
MODE	Default Messages Altered	X	Mode 3	
NOTE NUMBER	True Voice	X	0-127	
VELOCITY	Note ON	X	O	
	Note OFF	X	X	
AFTER TOUCH	Key's	X	O	
	Ch's	X	O	
PITCH BENDER		X	O	
CONTROL CHANGE	0-1	X	O	
	5-7	X	O	
	10-11	X	O	
	64-67	X	O	
	80-81	X	O	
	91	X	O	
	93	X	O	
	99	X	O	
	101	X	O	
	120-121	X	O	
	123	X	O	
	126-127	X	O	
PROGRAM CHANGE	True #	X	O	
			0-127	
SYSTEM EXCLUSIVE		O	O	
SYSTEM COMMON	Song Pos	X	X	
	Song Sel	X	X	
	Tune	X	X	
SYSTEM REAL TIME	Clock	X	X	
	Commands	X	X	
AUX MESSAGES	Local On-Off	X	X	
	All note Off	X	O	
	Active Sense	X	X	
	Reset	X	O	

Mode 1: Omni On, Poly
Mode 3: Omni Off, Poly

Mode 2: Omni On, Mono
Mode 4: Omni Off, Mono

O = YES
X = NO



Sales Division: Via Belvedere Fogliense 8, I-47836 Mondaino (RN) Italy
tel.+39-0541-981700 - fax +39-0541-869605 -
e-mail: viscount@omniway.sm - Internet: www.viscount-organs.com - www.viscount.it

Distribution for Italy: TITAN MUSIC S.A.
Strada Genghe di Atto, 80 - 47031 Acquaviva – Repubblica di San Marino
tel.0549-999164 - fax 0549-999490
e-mail: viscount@omniway.sm - Internet: www.viscount-organs.com - www.viscount.it